

## 日医総研ワーキングペーパー

### 製薬メーカーと医薬品卸の経営実態 - 2003年3月期決算短信より -

No.84

平成15年6月24日

日医総研

岸本麻衣子・前田由美子（内線2291）

製薬メーカーと医薬品卸の経営実態 - 2003年3月期決算短信より -

日医総研 岸本麻衣子 前田由美子

#### キーワード

製薬メーカー  
医薬品卸

決算短信  
財務分析

経営指標

#### ポイント

製薬メーカー大手15社の医薬品売上高総額は、前年度比3.7%の増収であった（2001年度44,612億円、2002年度46,280億円）。

また、経常利益総額は前年度比3.4%の増益であった（2001年度10,185億円、2002年度10,530億円）。

企業別では、武田薬品の医薬品売上高が9,283億円となり、2位の三共（医薬品売上高4,435億円）との差がさらに開いた。

医薬品卸大手6社の卸事業売上高総額は、前年度比8.1%の増収であった（2001年度35,956億円、2002年度38,864億円）。

また、経常利益総額は67.1%の増益であった（2001年度379億円、2002年度633億円）。

企業別では、売上高はクラヤ三星堂が12,745億円で引き続きトップである。しかし、利益率はスズケン（売上高経常利益率2.6%）がクラヤ三星堂（売上高経常利益率1.1%）を上回っている。

医薬品卸は売上原価100のものを110で医療機関に売っており、10%の粗利益を得ている。しかも、2001年度から2002年度にかけて粗利率（売上総利益率）は拡大している。

医薬品卸は、医療機関からは医薬品を売った3.2か月後に代金を回収する。しかし、製薬メーカーに支払うのはその1.4か月後である。その間、製薬メーカーから無利子でお金を借りているようなものであり、このため、ほとんど無借金経営ですんでいる。

## 目次

### 研究の目的と方法

．要約（製薬メーカーと医薬品卸の大きな動向）	2
．医薬品市場の全体像	
1．製薬メーカー	5
2．医薬品卸	11
．製薬メーカーと医薬品卸の経営指標	
1．利益と費用の推移	13
2．収益性	16
3．安全性	20
4．効率性	24
参考資料	27

### 付録

- 1．製薬メーカー
  - （1）連結経営指標
  - （2）連結損益計算書
  - （3）連結貸借対照表
  - （4）連結キャッシュフロー
- 2．医薬品卸
  - （5）連結経営指標
  - （6）連結損益計算書
  - （7）連結貸借対照表
  - （8）連結キャッシュフロー

## 研究の目的と方法

2002年4月に薬価基準が引き下げられた。本研究は、その後の製薬メーカーと医薬品卸の動向を迅速に把握するため、決算短信を用いて分析を行った。決算短信は、決算の速報版であり、もっとも早い段階で前期の決算状況を知ることができる資料である。

本研究は、5月末までに決算短信を公開した上場企業のうち、製薬メーカーについては売上高上位15社<sup>1</sup>、医薬品卸については売上高上位6社の連結決算データを用いて分析した。

なお、以下に示すように、一部の企業は1998年あるいは1999年以降に連結決算を行うようになったので、それ以前の分析には個別決算のデータを用いている。

### 【製薬メーカー15社】

武田薬品

三共

山之内製薬

塩野義製薬

協和発酵

エーザイ

藤沢薬品

第一製薬

大正製薬（1998年度以降連結決算公表。2002年に富山化学工業株式会社と資本・業務提携）

中外製薬（2002年に日本ロシュと合併）

田辺製薬

三菱ウェルファーマ（1998年に吉富製薬株式会社と株式会社ミドリ十字が合併してウェルファイドに、2000年に三菱東京製薬株式会社とウェルファイドが合併して三菱ウェルファーマとなった。2000年度まで旧ウェルファイドの連結決算データを用いて分析）

大日本製薬

小野薬品（1999年度以降連結決算公表）

萬有製薬（2002年度以降連結決算公表。2003年に米国メルクの傘下へ）

### 【医薬品卸6社】

クラヤ三星堂（2000年クラヤと三星堂が合併。1999年までクラヤと三星堂の個別決算の合計値を用いて分析）

スズケン（2002年10月オオモリ薬品と合併。2002年度まではスズケンの連結決算データを用いて分析）

福神（1999年度以降連結決算公開）

東邦薬品

アズウェル

ほくやく

<sup>1</sup> 住友製薬は2002年度売上高1,383億円で、製薬メーカー大手の中では売上高15位であるが、非上場企業のため住友製薬を除く15社を分析対象とした。

・要約（製薬メーカーと医薬品卸の大きな動向）

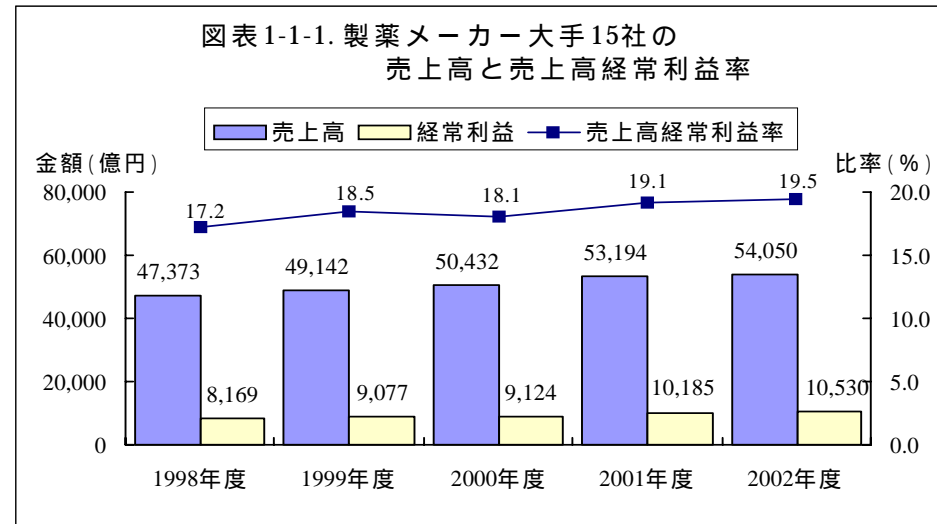
収益面

【製薬メーカー】

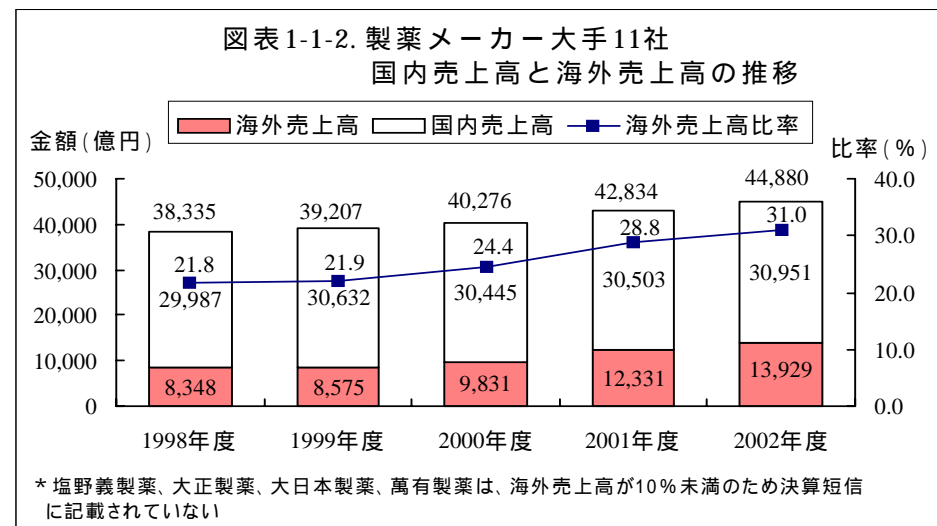
製薬メーカー大手 15 社の売上高総額は、大手 15 社合計で 1.6%の増収となった(2001 年度 53,194 億円、2002 年度 54,050 億円)。

経常利益総額は、2001 年度 10,185 億円から 2002 年度 10,530 億円へと 345 億円(3.4%)増加した。

また、売上高経常利益率は 19.1%から 19.5%に伸びた。



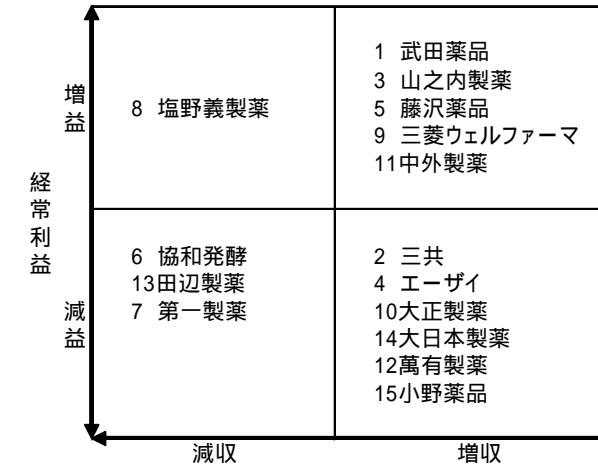
製薬メーカー大手 15 社のうち、海外売上高が 10%以上の製薬メーカーは 11 社である。製薬メーカー大手 11 社の海外売上高は、合計で 13.0%の増収となった(2001 年度 12,331 億円、2002 年度 13,929 億円)。売上高に占める海外売上高比率も、過去 5 年上昇傾向にあり、2002 年度には 30%を超えた。



製薬メーカーでは、売上高上位 5 位まで全て増収であり、そのうち 3 社は増益である。売上高 6 位以下の製薬メーカーは、増収が 4 社あるが、7 社で減益となった。

製薬メーカーでは、より規模の大きい企業がさらに増収増益になる傾向がある。

図表 1-1-3. 製薬メーカー大手 15 社 2002 年度売上高と経常利益の状況

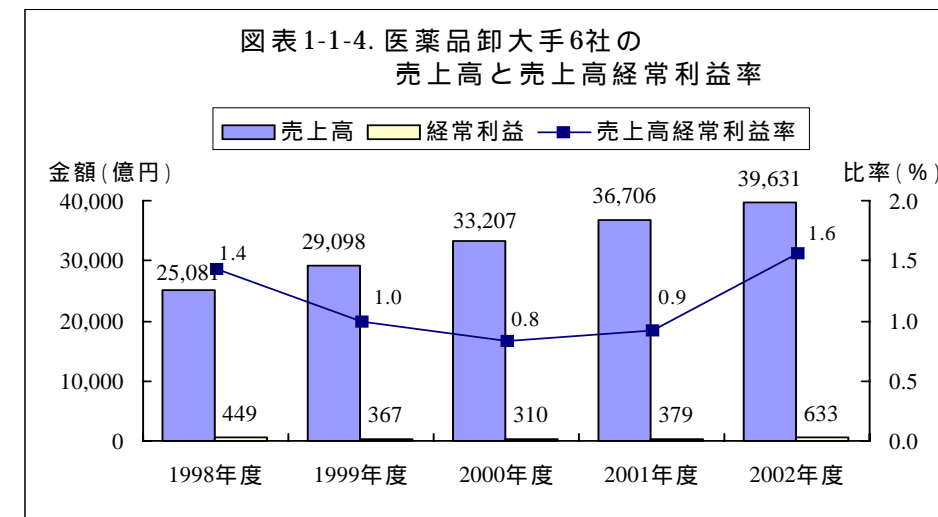


\* 数字は 2002 年度売上高順位

【医薬品卸】

医薬品卸大手 6 社の売上高総額は、大手 6 社合計で 8.0%の増収となった(2001 年度 36,706 億円、2002 年度 39,631 億円)。

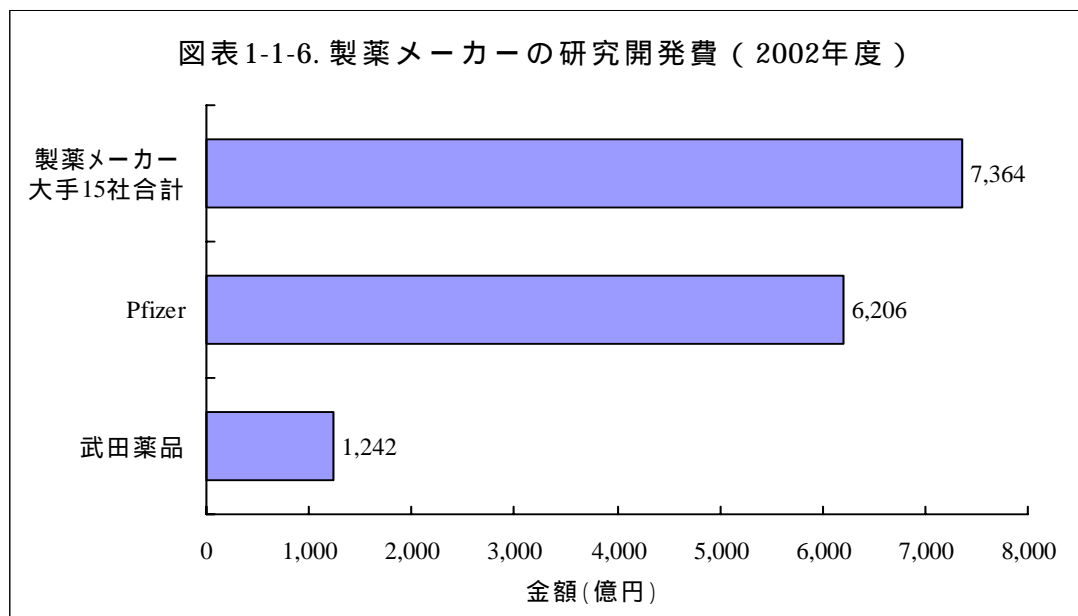
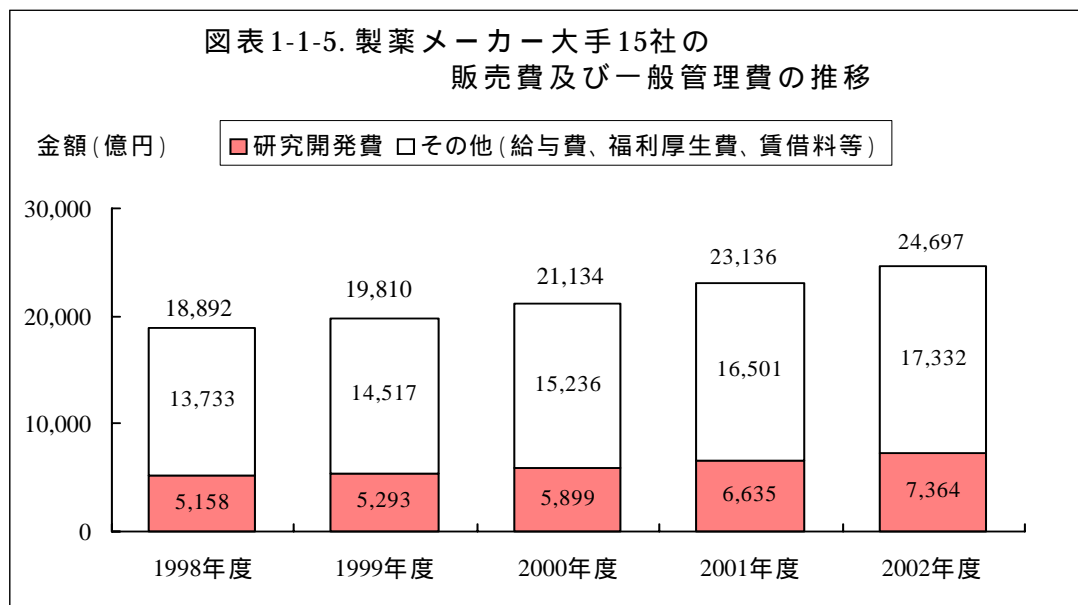
2002 年度の経常利益総額は、大手 6 社合計で 67.0%の増益となった(2001 年度 379 億円、2002 年度 633 億円)。売上高経常利益率は、2001 年度 0.9%から 2002 年度 1.6%へと向上した。



製薬メーカー、医薬品卸とも、大手はトータルで増収増益であった

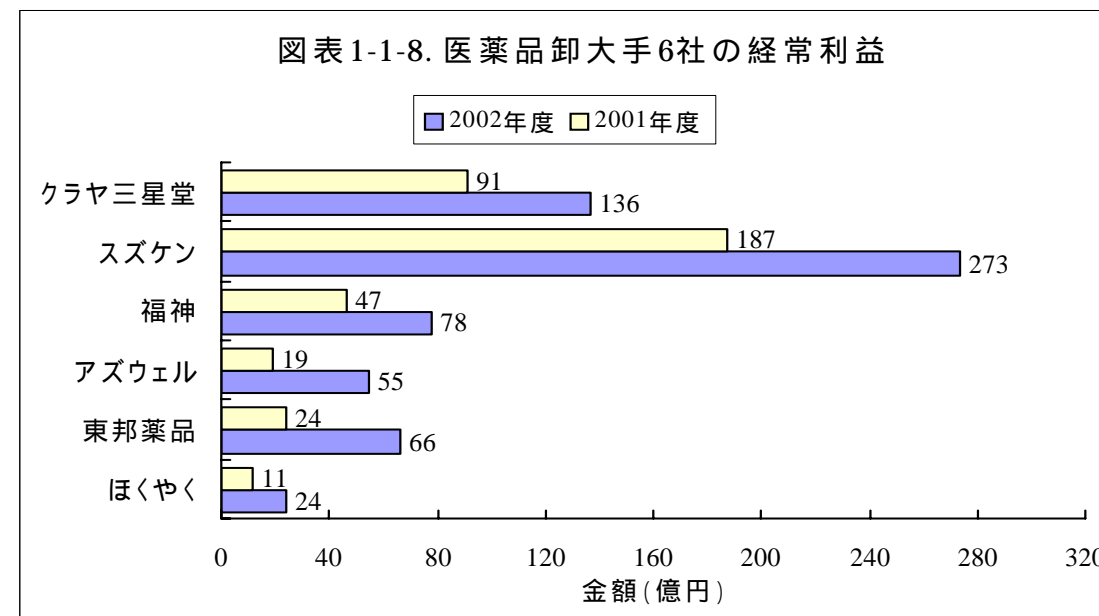
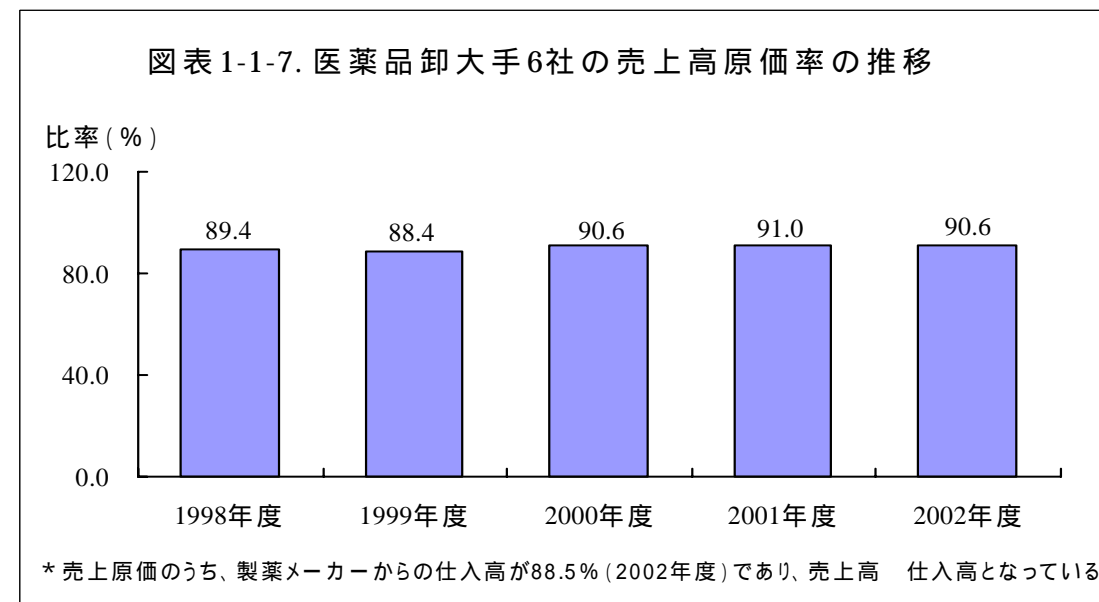
【製薬メーカー】

製薬メーカー大手 15 社の 2002 年度販売費及び一般管理費は 24,697 億円であり、年々増加している。販売費及び一般管理費のうち、研究開発費は 2001 年度 6,635 億円、2002 年度 7,364 億円であり、729 億円(11.0%)の増加であった。しかし、海外の製薬メーカーと比較すると、研究開発費は小さい。海外の製薬メーカーでもっとも研究開発費が大きい Pfizer は、1 社で 6,206 億円あり、日本の製薬メーカー大手 15 社の総計に匹敵する規模となっている。



【医薬品卸】

図表 1-1-7 は、売上高に占める売上原価の割合を示している。売上原価とは、製薬メーカーからの仕入や労務費、加工費(含外注)などを指す。医薬品卸大手 6 社の売上高原価率はほぼ横這いである。また、大手 6 社はいずれも増益であり、医薬品卸においては薬価改定の影響はまったく見られない。

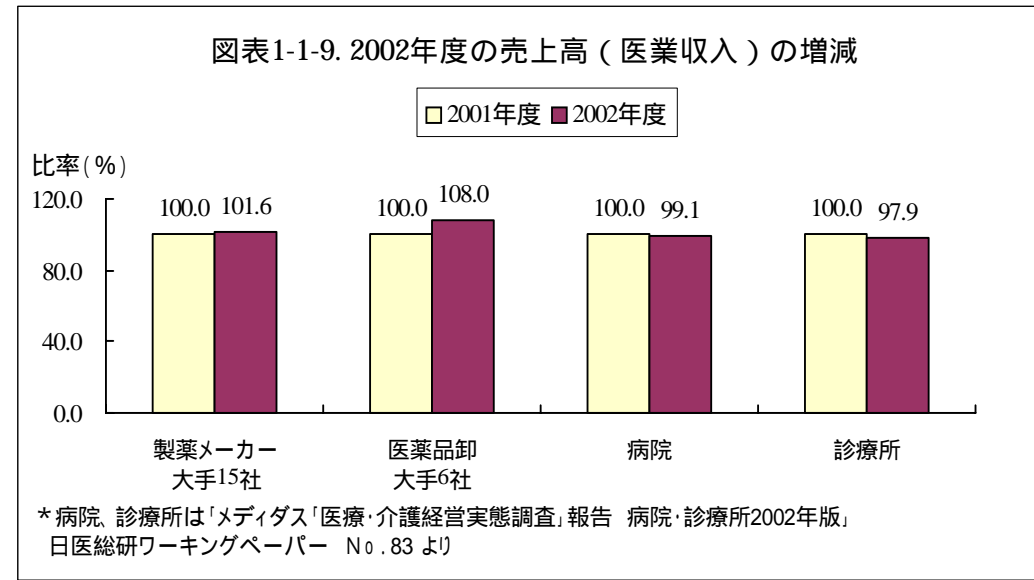


他業種との比較

【売上高の比較】

以下の図は、2001年度の売上高を100とした時の、2002年度の売上高である。製薬メーカー大手15社の2002年度売上高は101.6であり、医薬品卸大手6社は108.0であった。

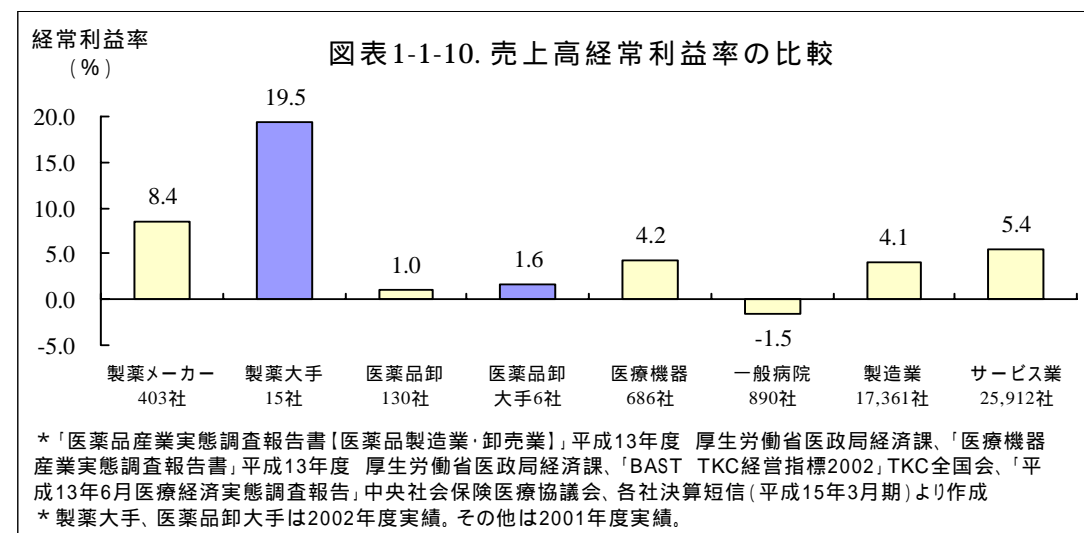
一方、メディダス「医療・介護経営実態調査」によると、病院全体では99.1、診療所全体では97.9であった。診療報酬が引下げられ医療機関では収入が減少しているが、薬価が下がった製薬メーカーも医薬品卸も増収であり、特に、医薬品卸は大きく伸びた。



【経常利益の比較】

製薬メーカー大手15社の売上高経常利益率は19.5%であり、製薬メーカー全体(8.4%)の倍以上である。製薬メーカー全体も製造業全体(4.1%)と比較すると売上高経常利益率は高い。

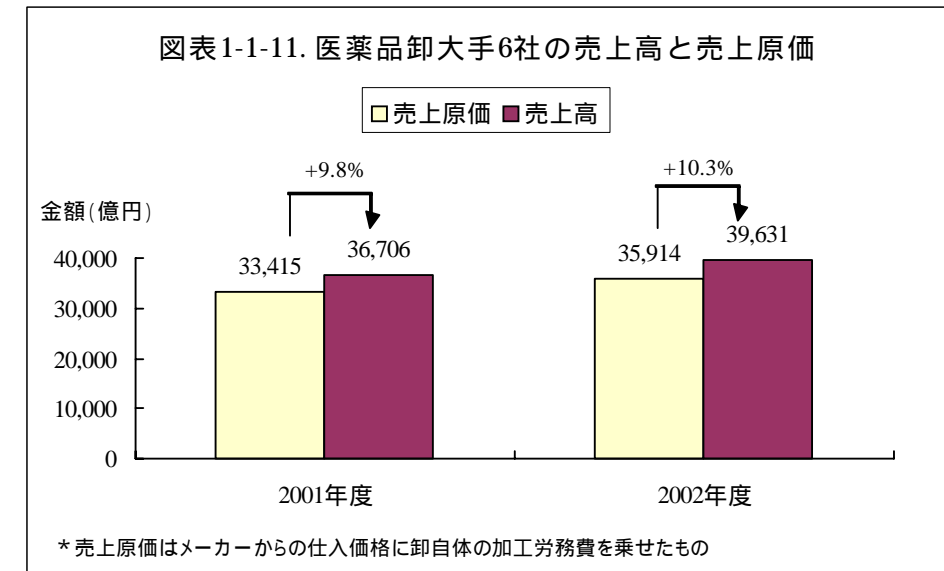
医薬品卸大手6社の売上高経常利益率は1.6%であり、大手とはいっても製薬メーカーと比べると利益率は1/10以下である。しかし、後述するように医薬品卸は製薬メーカーから金融支援を受けており、キャッシュフローにまったく不安はない。



製薬メーカーと医薬品卸の関係

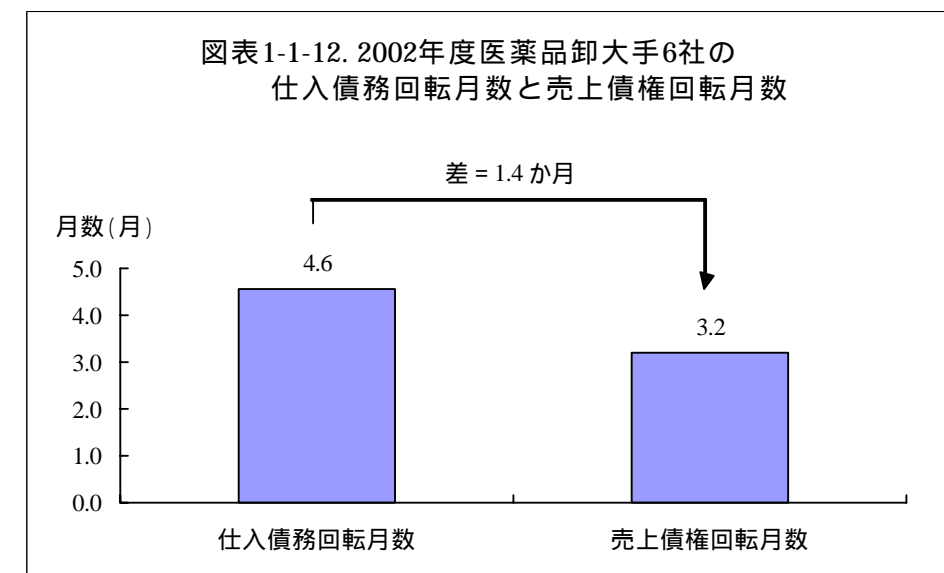
【医薬品卸の仕入価格と販売価格】

医薬品卸大手6社の2002年度売上原価は35,914億円であった。この年の売上高総額は39,631億円である。医薬品卸大手は、売上原価(ほとんどが製薬メーカーからの仕入高)に10.3%(粗利益)上乗せして販売している。かつ、粗利益は2001年度から2002年度にかけて拡大している。



【医薬品卸の仕入コスト】

医薬品卸大手は、医療機関からは医薬品を売って3.2か月(売上債権回転月数)後に回収する。しかし、製薬メーカーに代金を支払うのは仕入後4.6か月(仕入債務回転月数)である。医薬品卸には、差引1.4か月分のキャッシュがプールされていることになる。



・医薬品市場の全体像

1. 製薬メーカー

国内市場と大手企業の動向

< 業界全体（2001年度まで）>

「医薬品産業実態調査報告書【医薬品産業・卸売業】」<sup>1</sup>（厚生労働省）によると、2001年度の医薬品売上高は全体で86,419億円であった。1998年度以降、調査対象企業数が減少し、そのため集計企業数も減少しているが、過去4年間医薬品売上高は増加を続けている。製薬メーカーの淘汰や統廃合が進んでいるものと推察される。

一般用医薬品売上高は1998年度以降減少傾向にあったが、2000年度から2001年度にかけて増加となった。医療用医薬品売上高は増加を続けており、2000年度から2001年度にかけて8.3%伸びた。

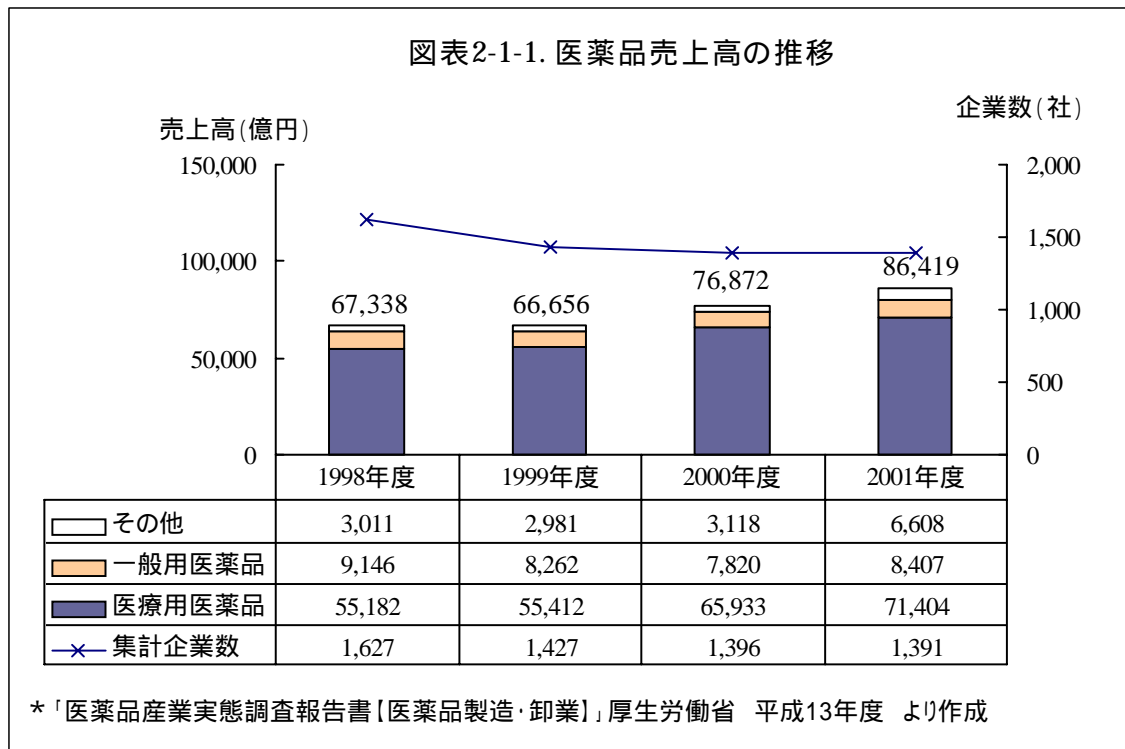
< 大手15社（2002年度）>

製薬メーカー大手15社の売上高総額は、2001年度53,194億円から2002年度54,050億円へと856億円（1.6%）の増加であった。

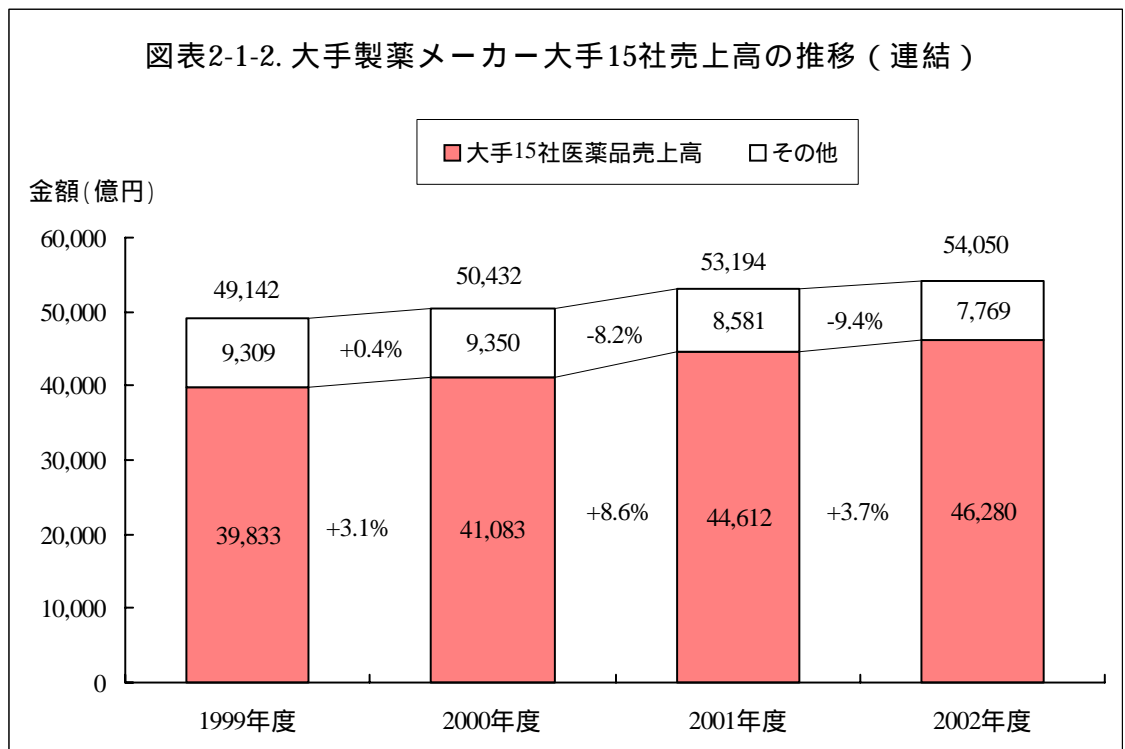
売上高総額のうち、医薬品売上高は3.7%増加した（2001年度44,612億円、2002年度46,280億円）。また、大手15社の医薬品以外の売上高は、9.4%減少した（2001年度8,581億円、2002年度7,769億円）。つまり、製薬メーカーの売上拡大は、ほぼすべて医薬品売上高の寄与によるものである。

<sup>1</sup> 薬事法に基づき医薬品製造業、輸入販売業の許可を受けて医薬品を製造、輸入販売している者の本社の全数を対象としている。調査対象企業数（回答企業数）は1998年度1,931社（1,627社）、1999年度1,886社（1,427社）、2000年度1,770社（1,396社）、2001年度1,781社（1,391社）

図表2-1-1. 医薬品売上高の推移



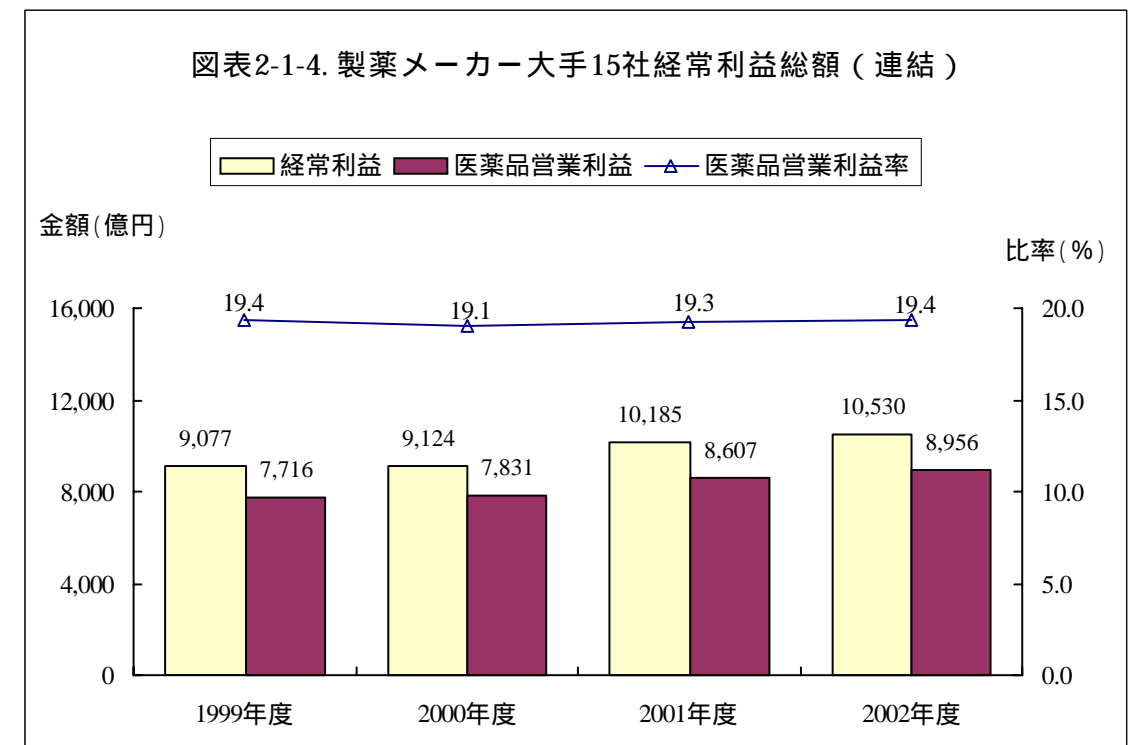
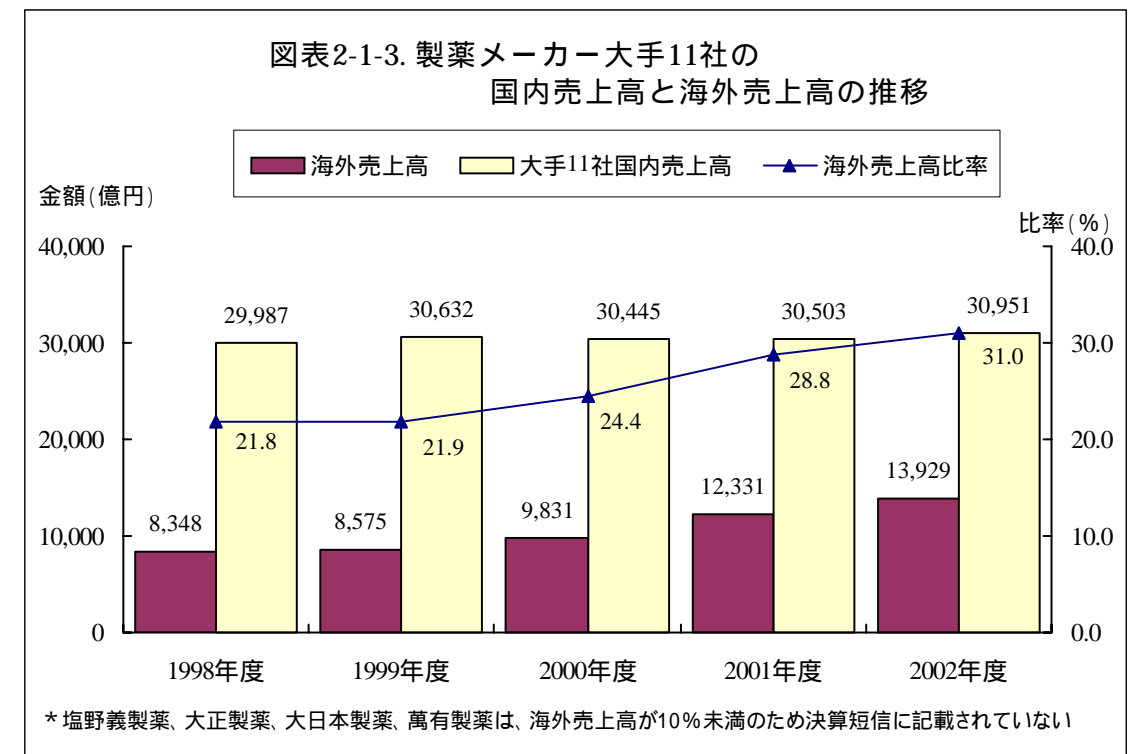
図表2-1-2. 大手製薬メーカー大手15社売上高の推移（連結）



製薬メーカー大手 15 社のうち、海外売上高が 10%以上の製薬メーカーは 11 社である<sup>2</sup>。大手 11 社の海外売上高は、2001 年度 12,331 億円、2002 年度 13,929 億円であった。2001 年度から 2002 年度にかけて 1,598 億円（13.0%）増加した。売上高に占める海外売上高比率も、2001 年度 28.8%から 2002 年度 31.0%へと 2.2%増加している。海外売上高比率は過去 5 年間増加しており、製薬メーカー大手は海外へのマーケットを拡大していることが伺える。

製薬メーカー大手 15 社の 2002 年度経常利益総額は 10,530 億円であった。大手 15 社で 1 兆円規模の利益をあげている。医薬品営業利益は 8,956 億円であり、前年度に比べて約 349 億円（4.1%）増加した。

製薬メーカー大手 15 社は、トータルで増収増益であった。前年度に比較すると、収入も利益も増加率はやや鈍ったが、医薬品営業利益を医薬品売上高で割った営業利益率は、2001 年度 19.3%から 2002 年度 19.4%へと微増となった。



<sup>2</sup> 塩野義製薬、大正製薬、大日本製薬、萬有製薬は海外売上高が 10%未満のため決算短信に記載されていない



医薬品売上高と医薬品営業利益について企業別に見ると、2001年度も武田工業が増収増益となり、2位との差を広げた。

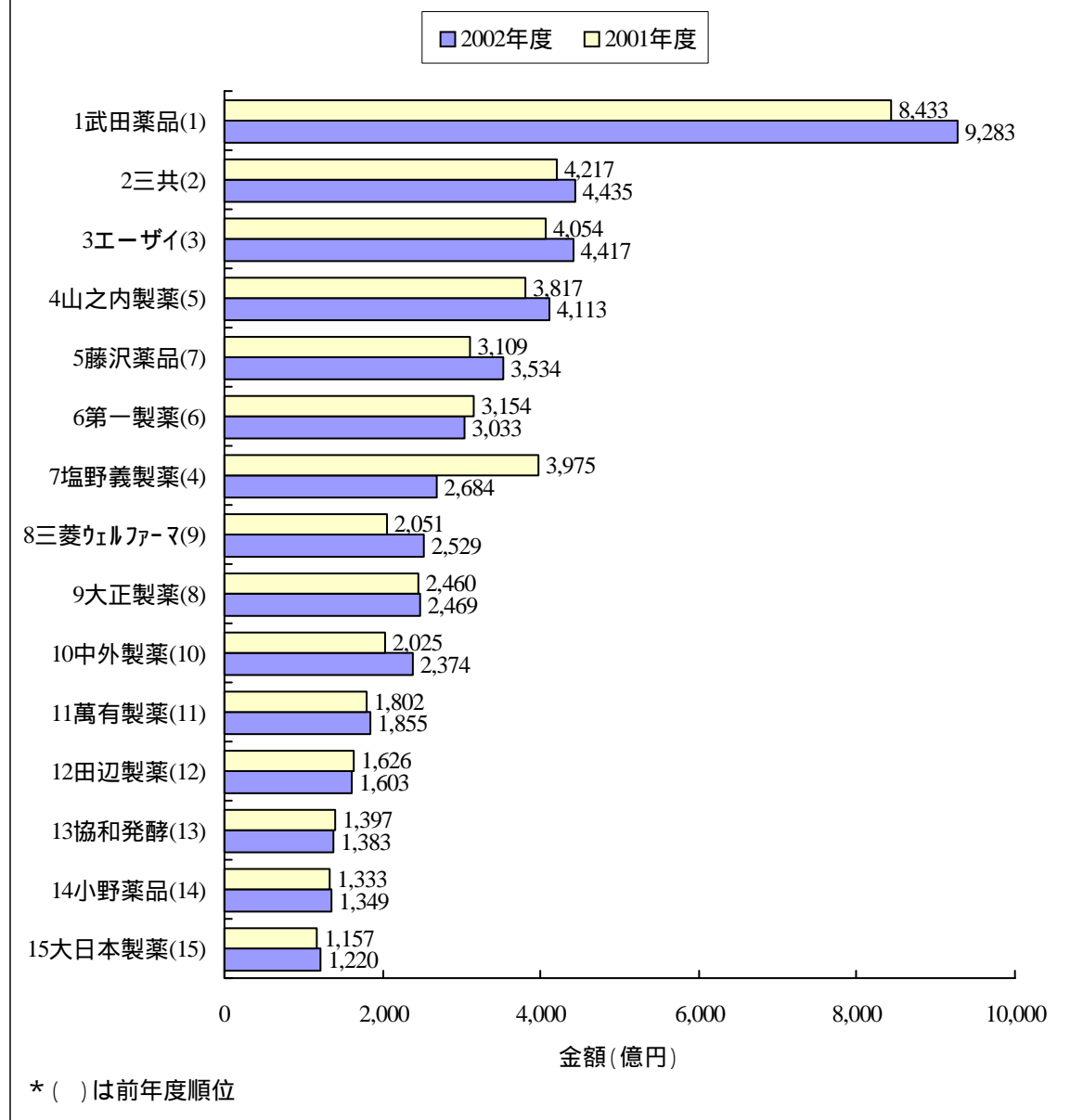
以下、売上高では上位5位までが増収であり、うち3社が増益である。売上高6位の第一製薬は、医療用医薬品が競合品などの影響を受け減収となった。7位の塩野義製薬は、事業の移管と子会社の分離によって、売上高を大きく落とした<sup>3</sup>。

売上高8位以下の大手の中では中小規模の製薬メーカーは、8社中6社が増収、2社が減収であった。

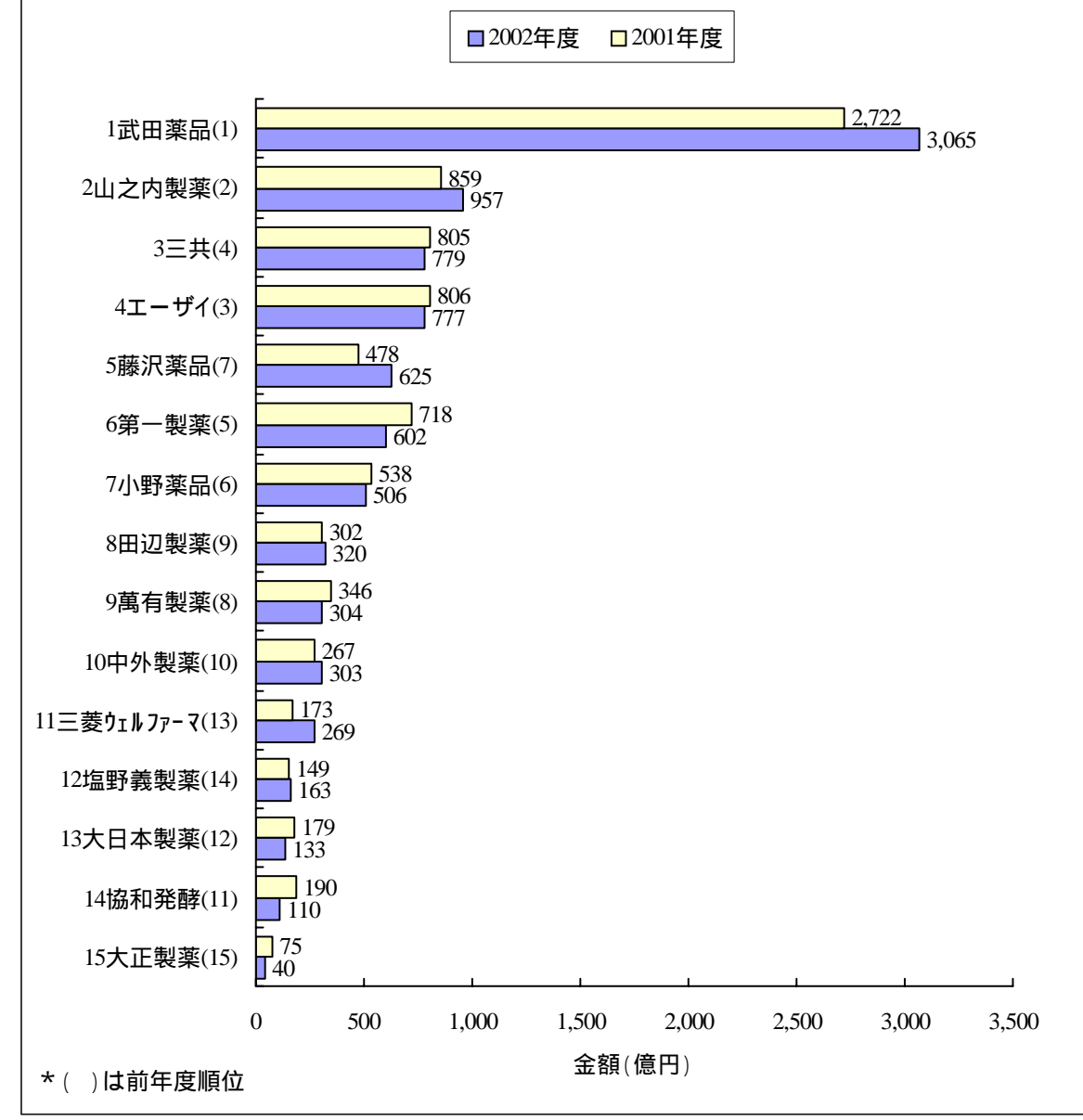
営業利益は製薬メーカー大手15社中7社で増益、8社で減益であった。増益率が高い企業は三菱ウエルファーマ（前年度比55.2%増）、藤沢薬品（前年度比30.8%増）、中外製薬（前年度比13.5%増）などである。

減益率が高い企業は大正製薬（前年度比46.8%減）、協和発酵（前年度比41.9%減）、大日本製薬（前年度比26.0%減）である。3社とも、主として販売費及び一般管理費の増加により減益となった。

図表2-1-5. 製薬メーカー大手15社医薬品売上高（連結）



図表2-1-6. 製薬メーカー大手15社医薬品営業利益（連結）



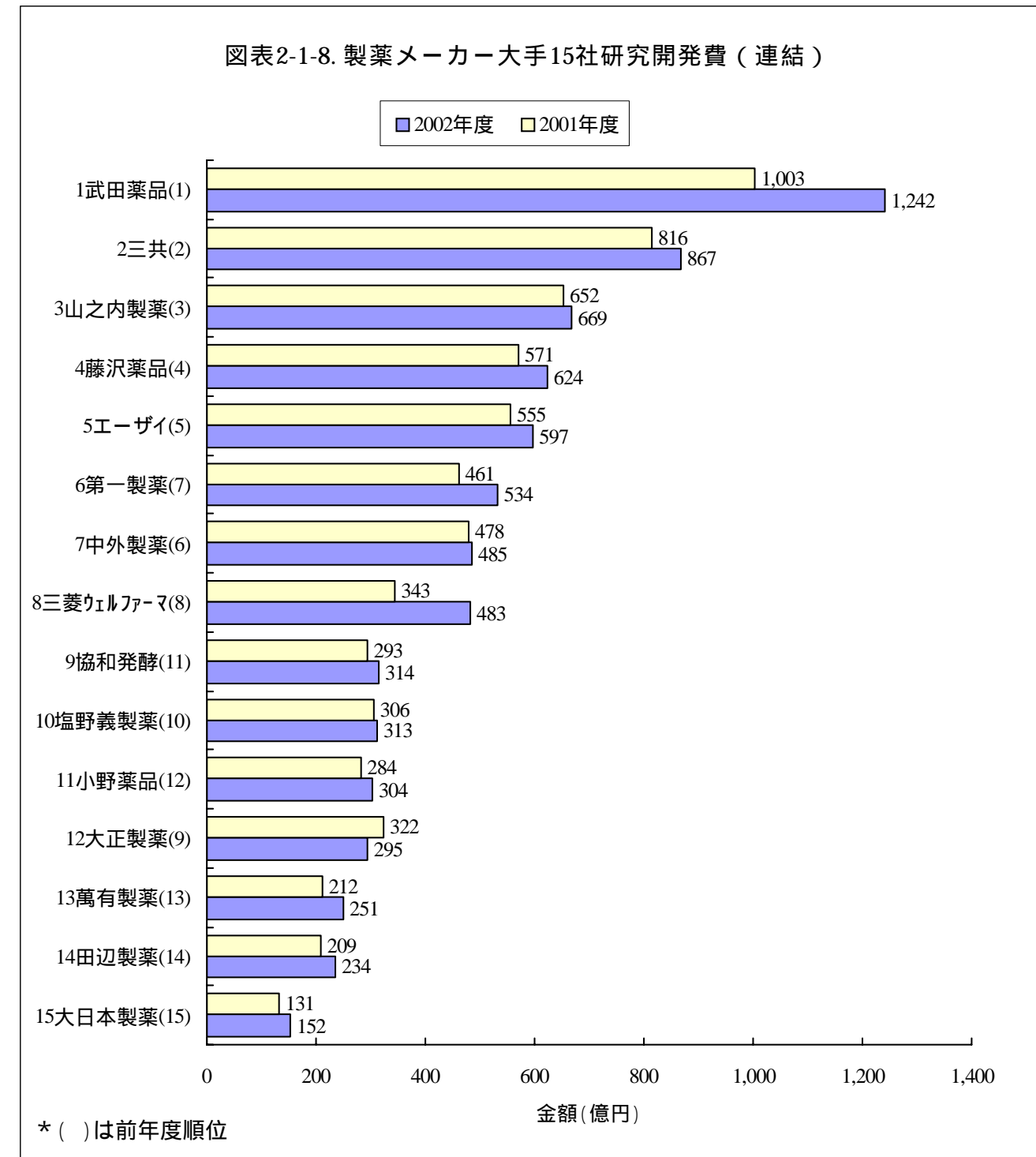
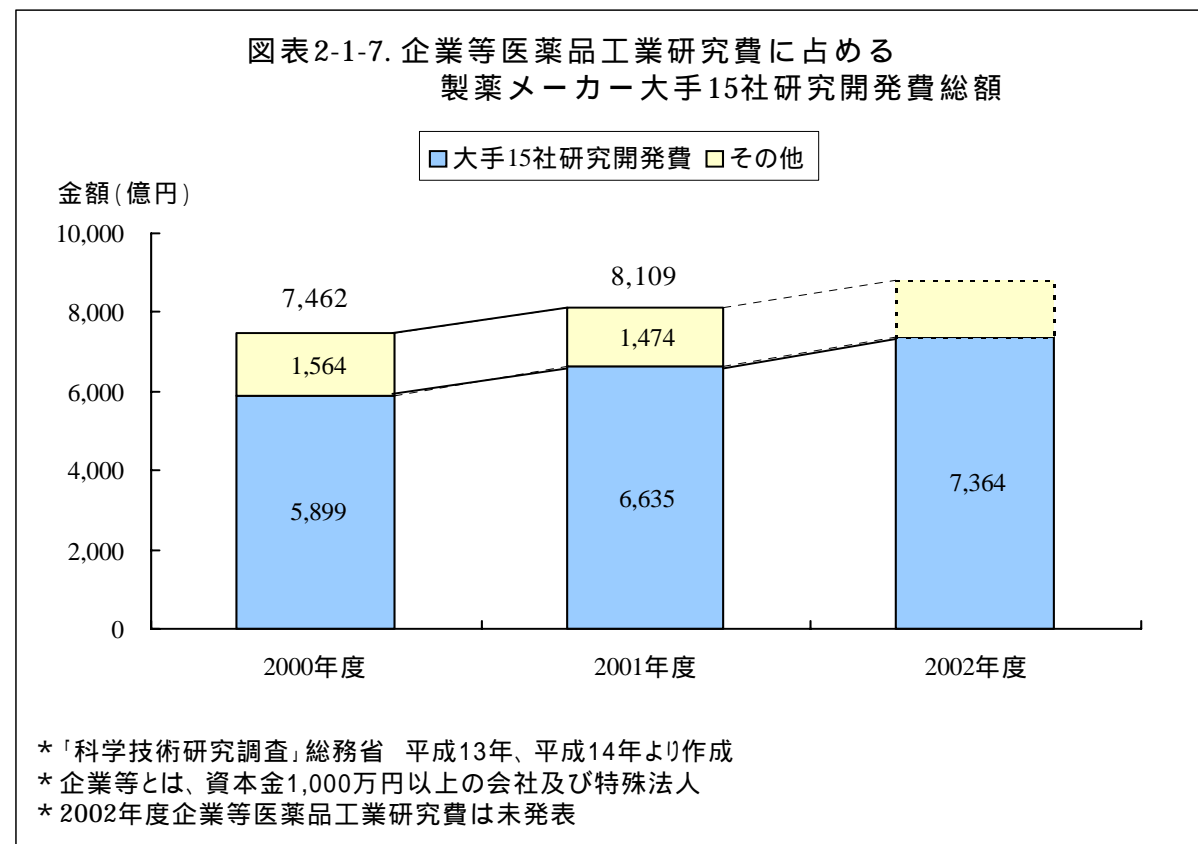
<sup>3</sup> 決算短信「当期概況」より



2001年度に日本企業が医薬品工業に費やした研究費は、8,109億円であった。その年の製薬メーカー大手15社の研究開発費は6,635億円であり、国内医薬品工業研究費の約80%を占める規模であった。

2001年度から2002年度にかけて、製薬メーカー大手15社の研究開発費総額は7,364億円となり、前年度比729億円(11.0%)増加した。

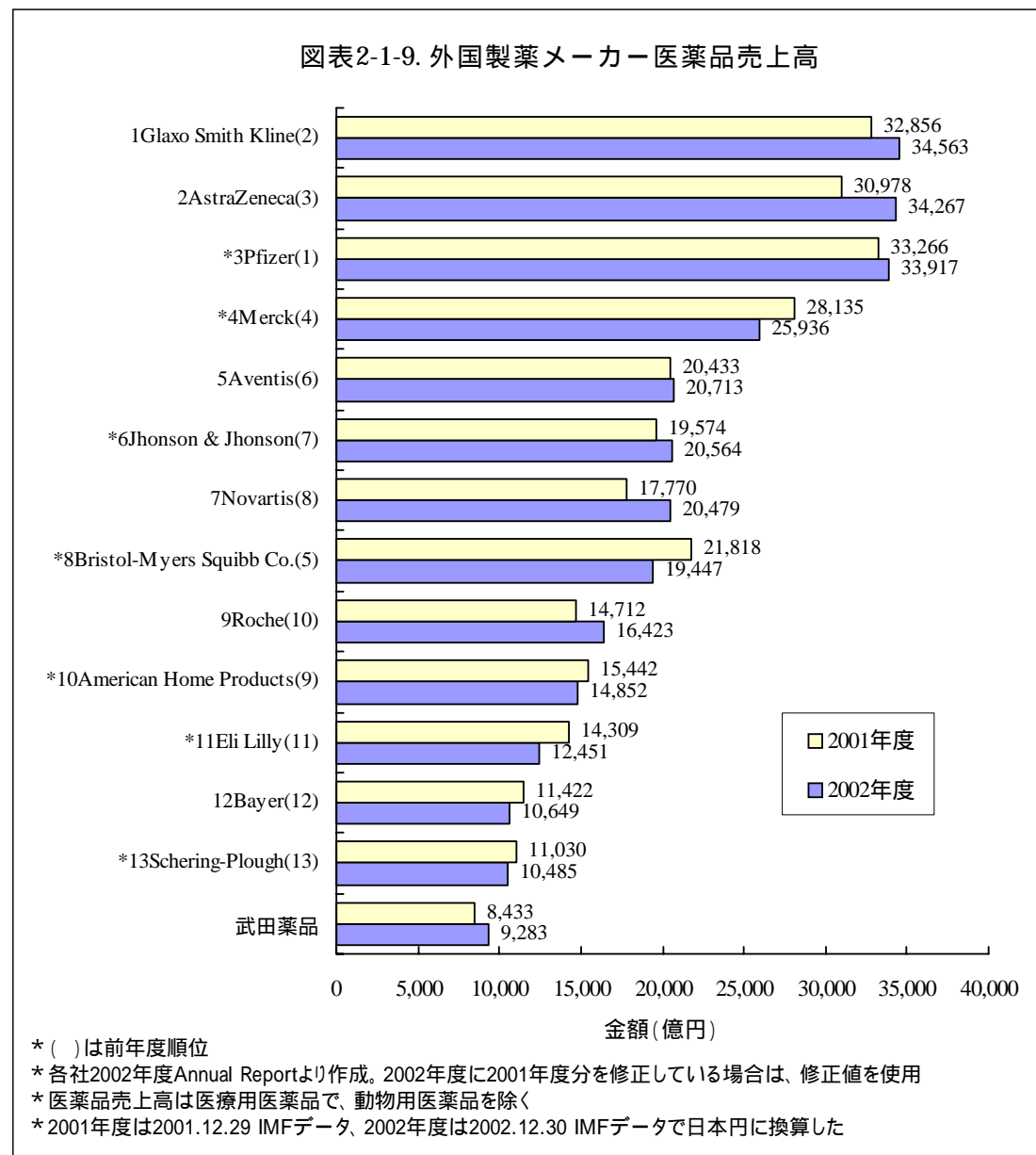
海外の製薬メーカーでもっとも研究開発費が高いPfizerの2002年度研究開発費は6,206億円であった。製薬メーカー大手15社の研究開発費は増加傾向にあるが、世界的に見ると、ようやく最大手外国企業1社分の研究開発費に相当する大きさに過ぎない(9頁 図表2-1-9参照)。



外国メーカーの状況

医薬品売上高が日本円で1兆円以上の外国企業を以下に挙げた。比較のため、IMFデータを使用して日本円に換算している<sup>4</sup>。米国企業については2001年度が円安であったので、2002年度に増収となっているが、日本円に換算すると減収となる企業がある。例えば、Merckは2001年度213億ドル、2002年度216億ドルと1.4%増収となったが、日本円では2001年度28,135億円、2002年度25,936億円と減収になる。以下、社名に\*を付した企業は米国企業である。

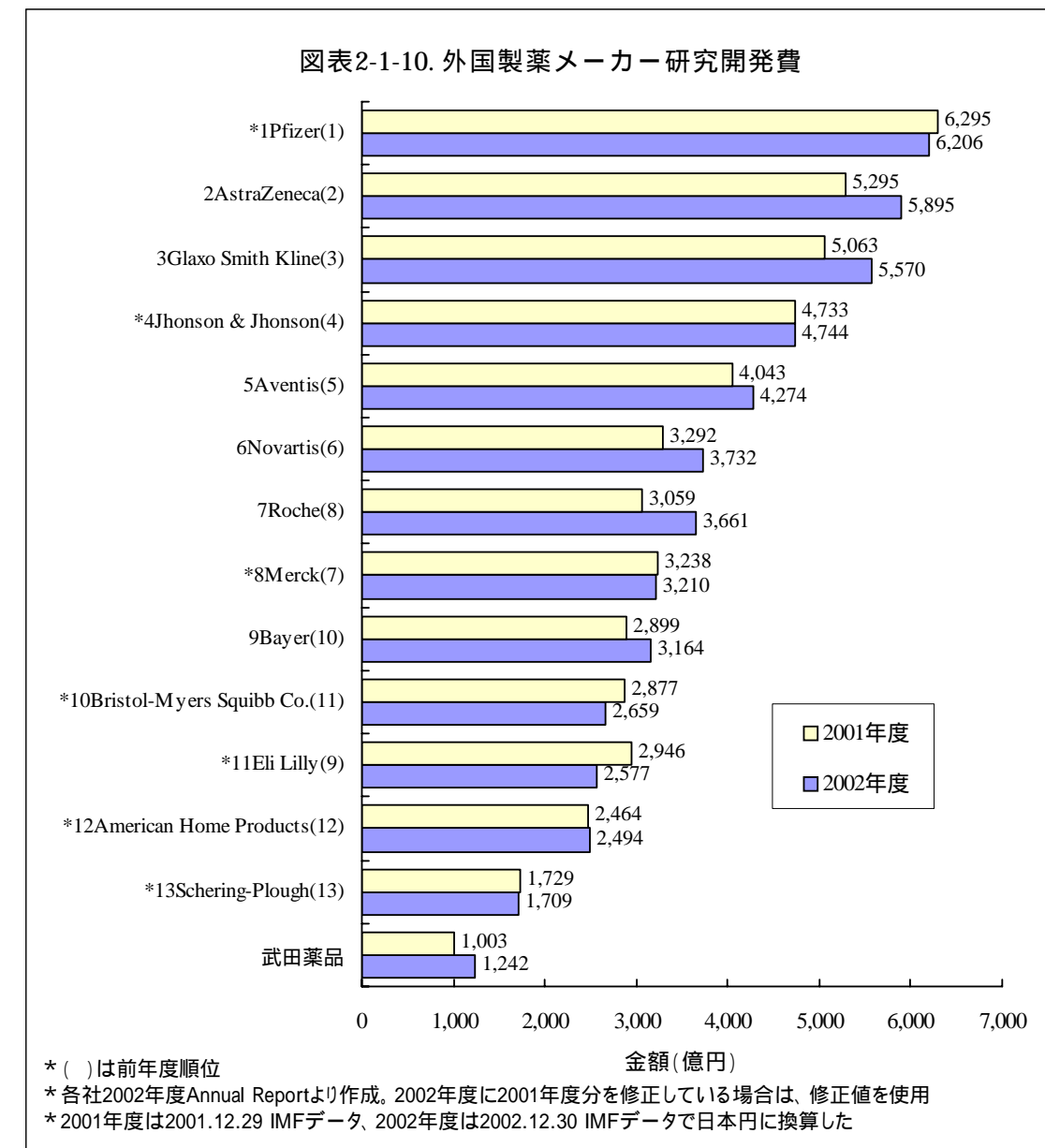
外国企業では、上位3社で医薬品売上高が3兆円を越えており、かつ増収である。



<sup>4</sup> 2001年12月のレートは、米ドル131.8円、ユーロ116.2円、英ポンド190.0円、スイスフラン78.6円。2002年12月は、米ドル119.9円、ユーロ125.0円、英ポンド192.1円、スイスフラン86.0円

医薬品売上高が日本円で1兆円以上の企業の研究開発費を以下に示す。

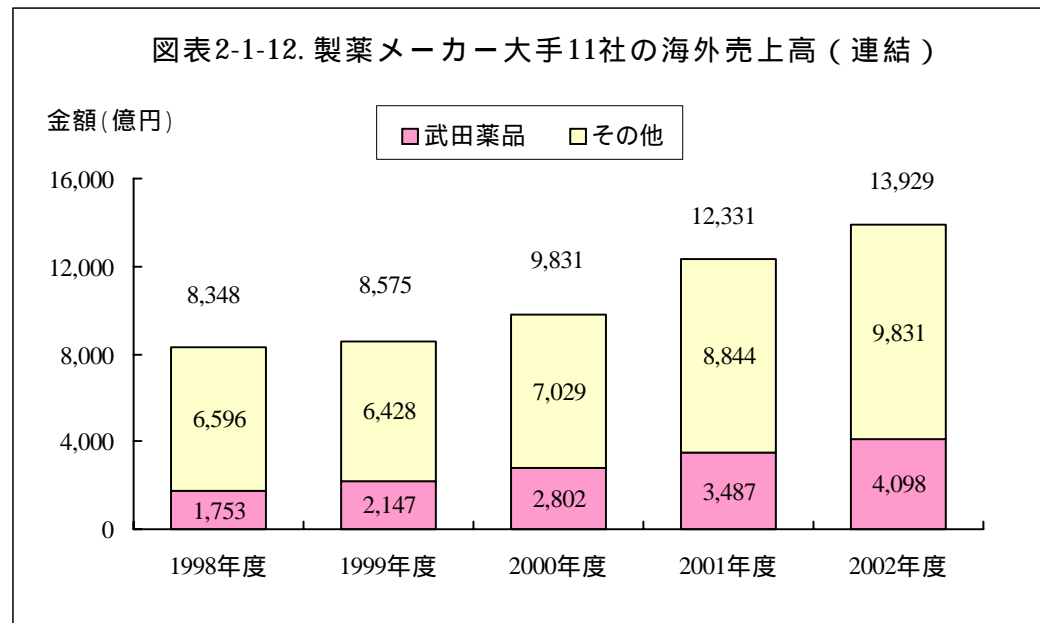
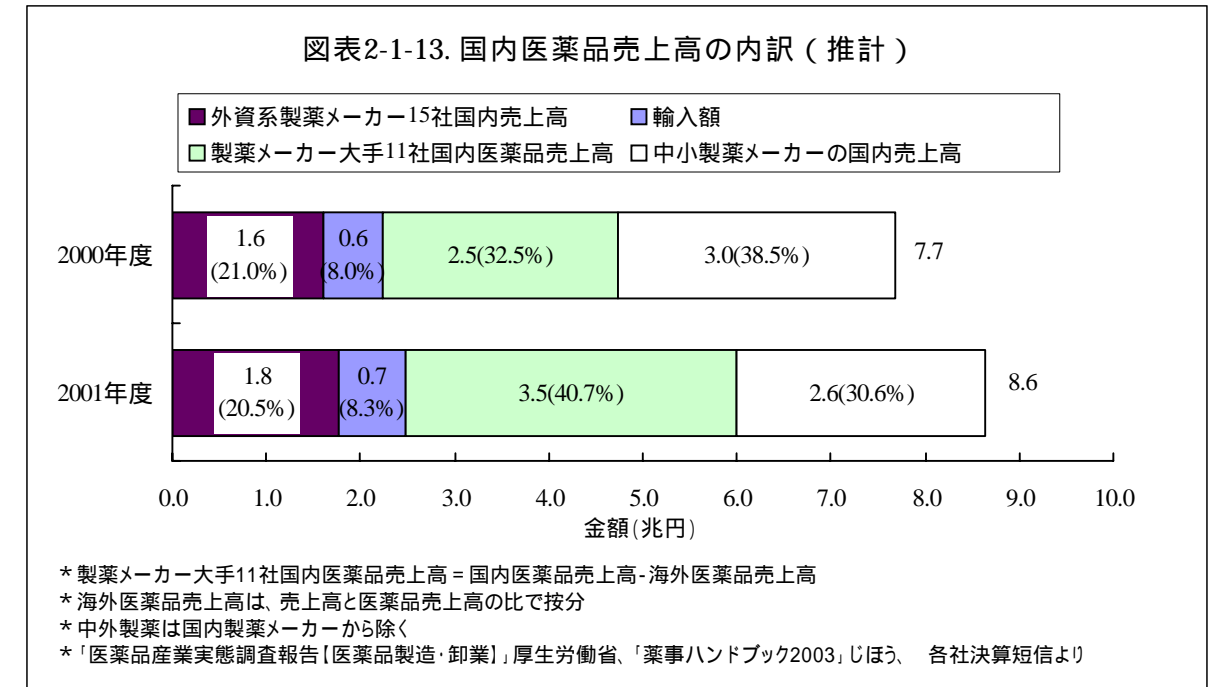
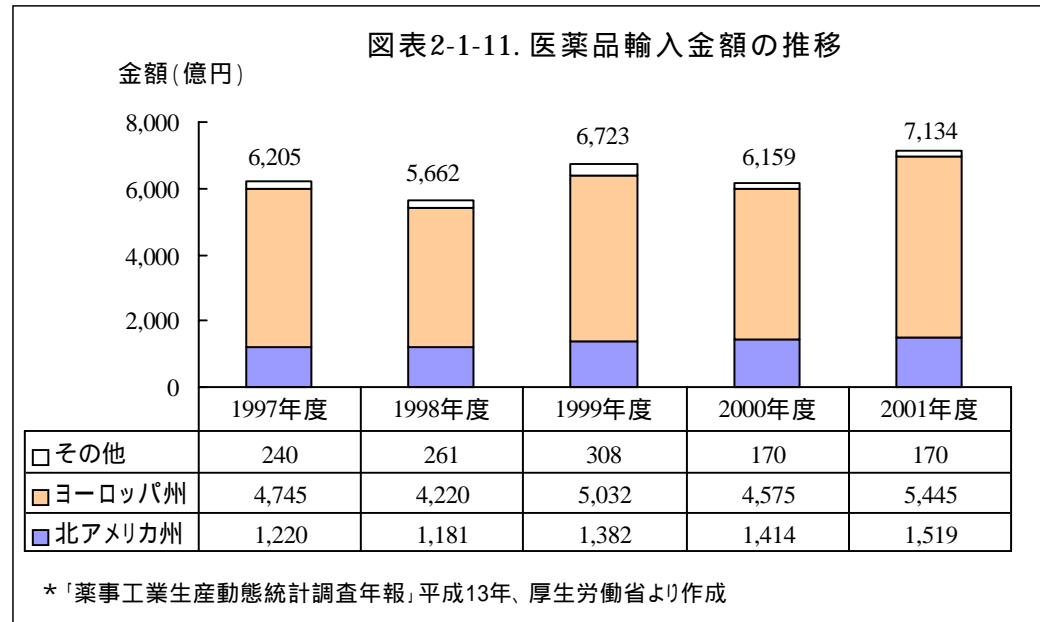
前述したように、Pfizerの研究開発費6,206億円は、日本の製薬メーカー大手15社の総研究開発費7,364億円に匹敵する大きさである。日本円で見ると2001年度6,295億円、2002年度6,206億円と減少しているが、ドルベースでは2001年度47.8億ドル、2002年度51.8億ドルと、4億ドル増加している<sup>5</sup>。



<sup>5</sup> 2001年度47.8億ドル=6,295億円(2001年12月米ドルレート131.8円)、2002年度51.8億ドル=6,206億円(2002年12月米ドルレート119.9円)

2001年度の医薬品輸入金額は7,134億円であり、前年度に比べて975億円(15.8%)増加した。また、この年の製薬メーカー大手11社の海外売上高<sup>6</sup>は12,331億円であり、輸入金額を上回っている。海外売上高は、2002年度には13,929億円に増加しており、年々増加する傾向にある。

図表2-1-12は2001年度の国内医薬品売上高の内訳を推計したものである。国内医薬品売上高8.6兆円のうち、外資系製薬メーカー15社で1.8兆円(シェア20.5%)、輸入が0.7兆円(8.3%)あり、合計2.5兆円(28.7%)を海外へ支払っていることになる。



<sup>6</sup> 塩野義製薬、大正製薬、大日本製薬、萬有製薬は、海外売上高が10%未満のため、決算短信に記載されていないため、11社分となっている

## 2. 医薬品卸

< 業界全体 (2001年度まで) >

「医薬品産業実態調査報告書【医薬品製造・卸業】」<sup>7</sup>によると、医薬品卸の2001年度医薬品売上高は全体で88,220億円であった。売上高は1999年度から2000年度にかけて減少したが、2000年度から2001年度は増加している。1999年度以降、調査対象企業数が減少しているため集計企業数も減少しているが、医薬品卸の売上高は増加となった。製薬メーカー同様、統廃合で大手への淘汰が進んでいると推察される。

< 大手6社 (2002年度) >

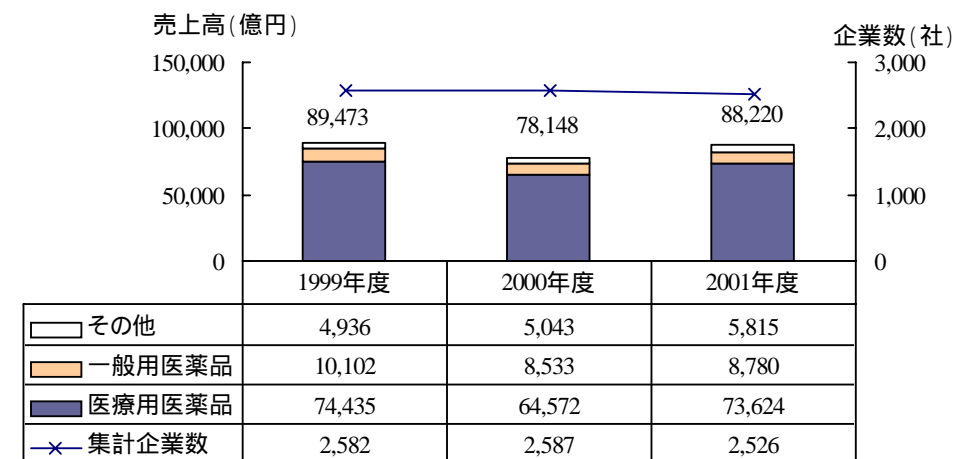
2002年度の医薬品卸大手6社の売上高総額は39,631億円であった。大手6社で国内医薬品卸売上高の約45.0%のシェアを占めている。前年度比伸び率は若干緩やかになってきているが、2001年度から2002年度にかけては8.0%伸びている。

経常利益は633億円であり、前年度から254億円(67.0%)増加した。

医薬品卸大手6社の2002年度はトータルで増収増益であった。経常利益を売上高で割った経常利益率は2001年度1.0%から2002年度1.6%へと増加しており、2002年度は特に利益面で、大幅に伸びる結果となった(図表3-2-4参照)。

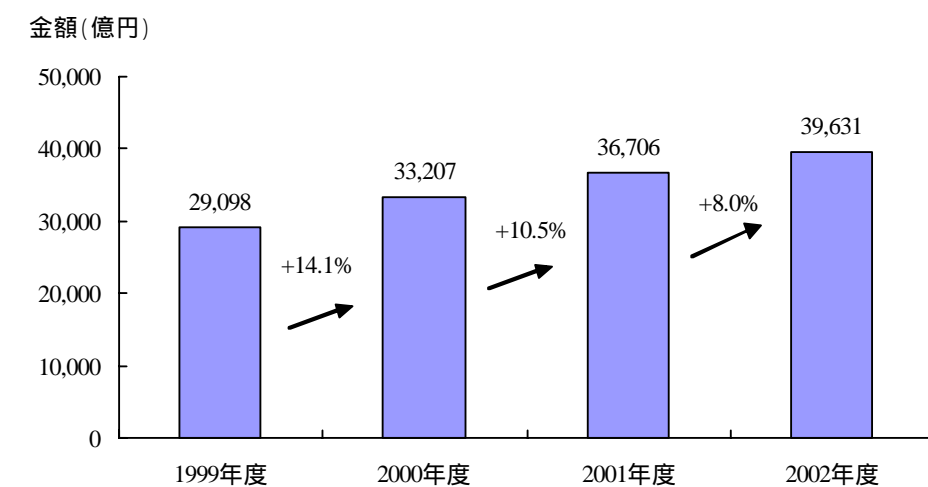
<sup>7</sup> 薬事法に基づき医薬品製造業、輸入販売業の許可を受けて医薬品を製造、輸入販売している者の本社の全数を対象としている。調査対象企業数(回答企業数)は1999年度3,779社(2,592社)、2000年度3,772社(2,587社)、2001年度3,760社(2,526社)である。

図表2-2-1. 医薬品卸医薬品売上高の推移

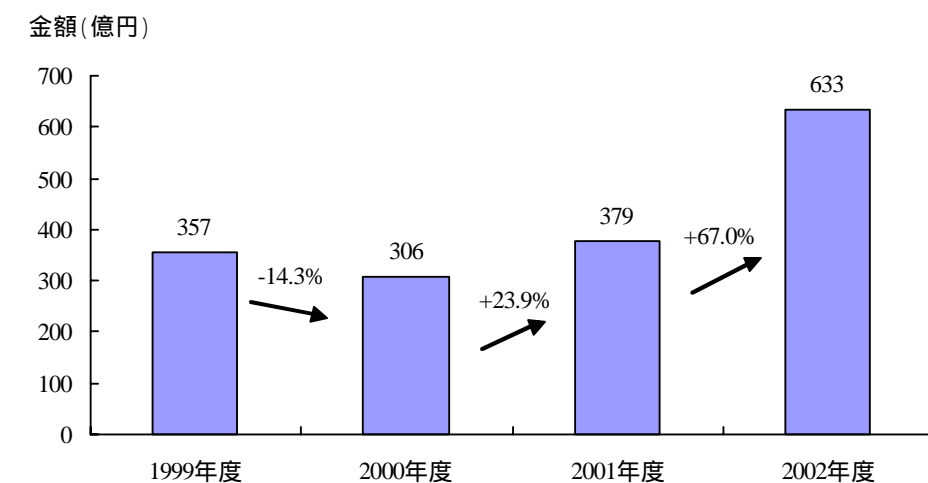


\*「医薬品産業実態調査報告書【医薬品製造・卸業】」厚生労働省 平成13年度より作成

図表2-2-2. 医薬品卸大手6社の売上高総額(連結)



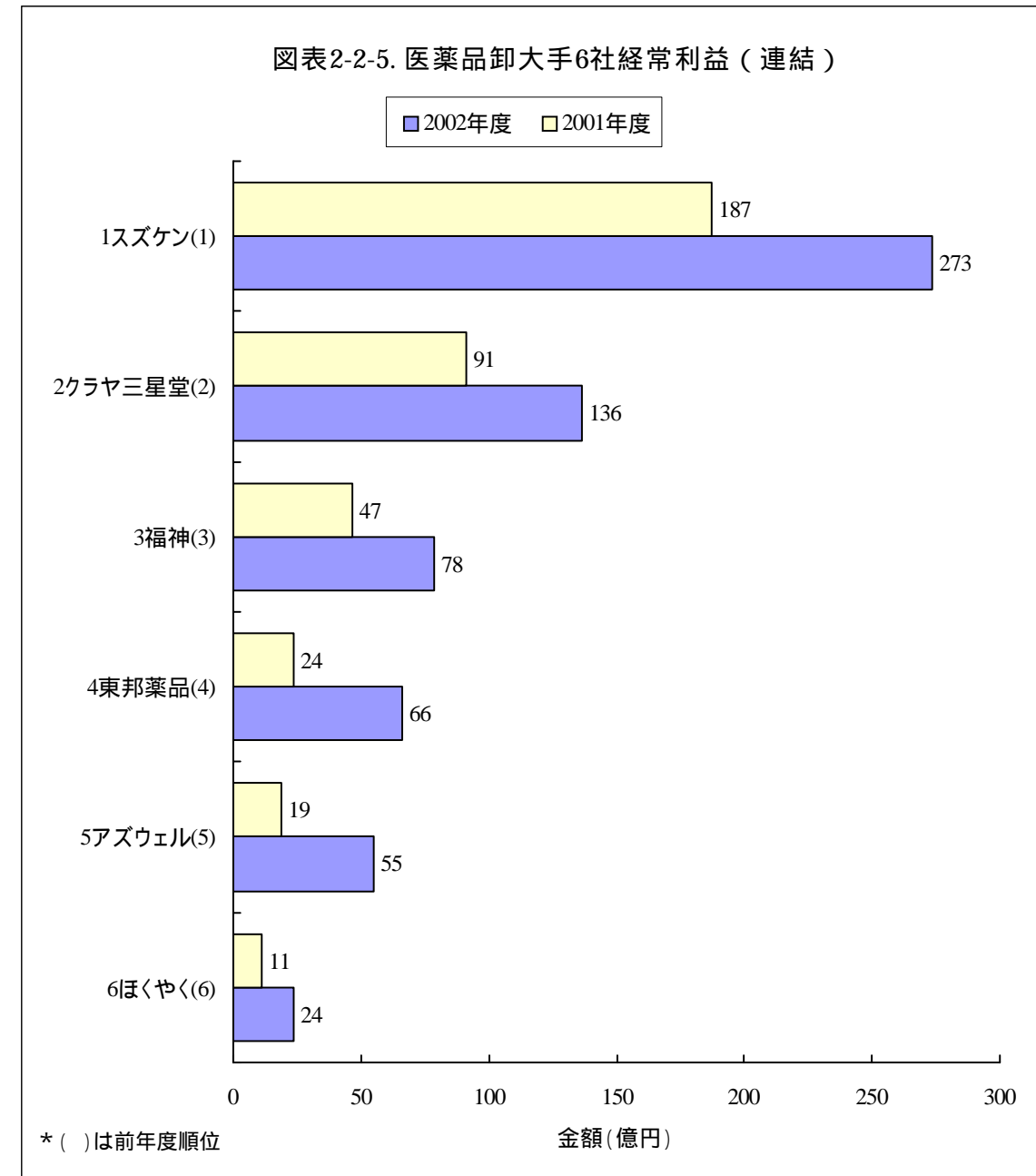
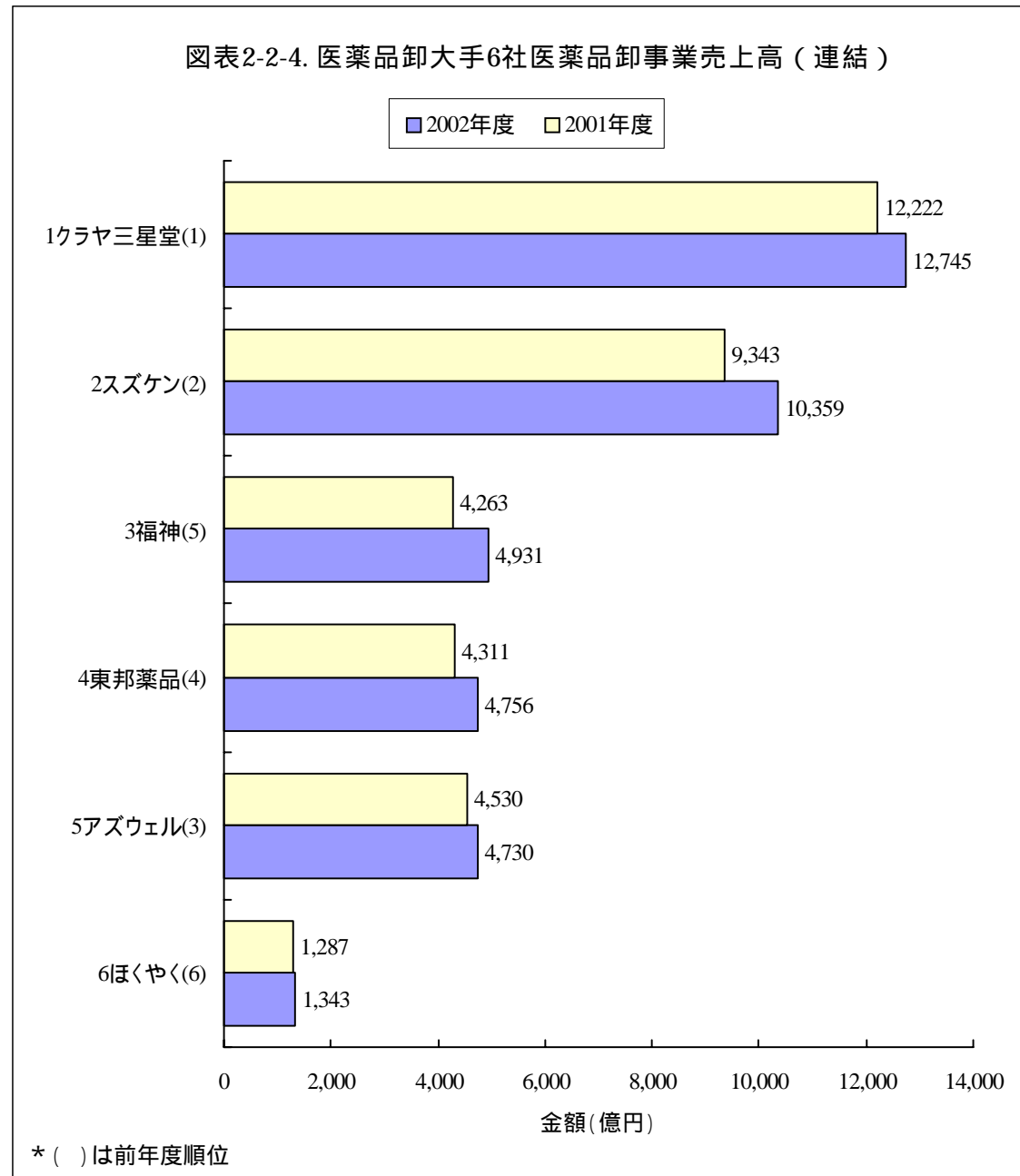
図表2-2-3. 医薬品卸大手6社の経常利益総額(連結)



医薬品卸大手6社は、すべて医薬品卸事業が増収となった。3位福神と5位アズウェルは9月末に経営統合をする予定であり、1位から3位まで売上高1兆円規模の企業が並ぶことになる。

経常利益も6社すべて増益である。前年度からの増加率は、1位のスズケンが46.2%、2位のクラヤ三星堂が49.5%、福神68.4%、東邦薬品177.1%、アズウェル188.1%、ほくやく111.6%と、いずれも非常に高い伸びを示している。

薬価はマイナス改定であったが、医薬品卸は売上高を伸ばし経常利益も大きく伸びる結果となった。



企業別経営指標

企業別の経営指標による分析を行った。凡例の( )は2002年度の数値である。

1. 利益と費用の推移

(1) 売上高の推移

製薬メーカー

武田薬品は大手15社中売上高トップであり、かつ順調に売上高を伸ばしている。

2001年度まで微増傾向であった塩野義製薬は、医薬品の一部分を合併会社に移管したこと、子会社が提携先と合併して連結から外れたため、2002年度には売上高が過去5年間でもっとも落ち込んだ。

2001年度から2002年度にかけて、協和発酵、第一製薬、田辺製薬は売上高を落としたが、その他は微増傾向であった。

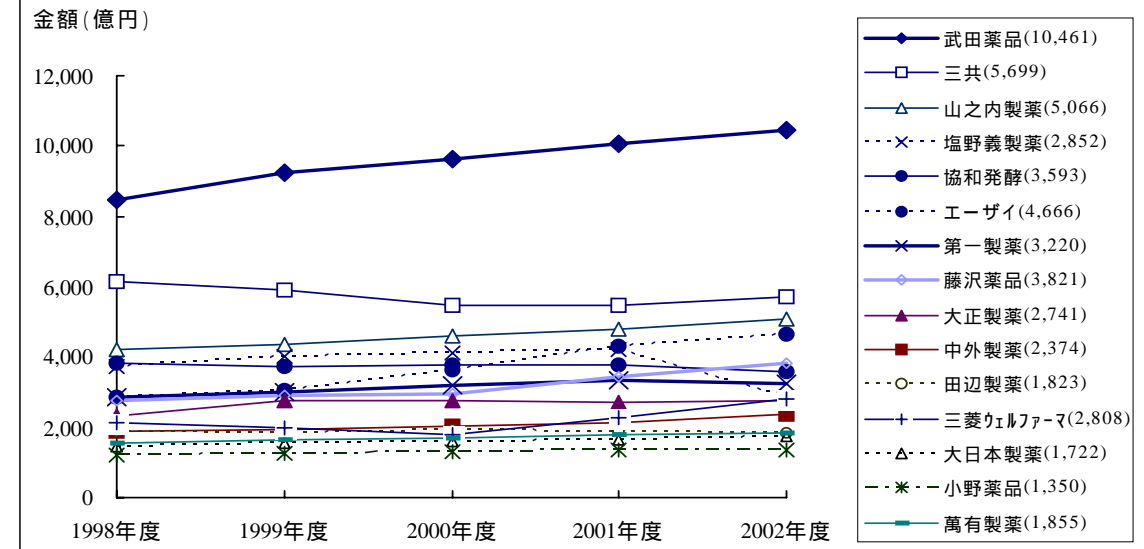
医薬品卸

クラヤ三星堂は1999年の合併後、2000年度にかけて大幅に売上高を伸ばした。その後、伸び率は落ち着いたが、2002年度も増収である。

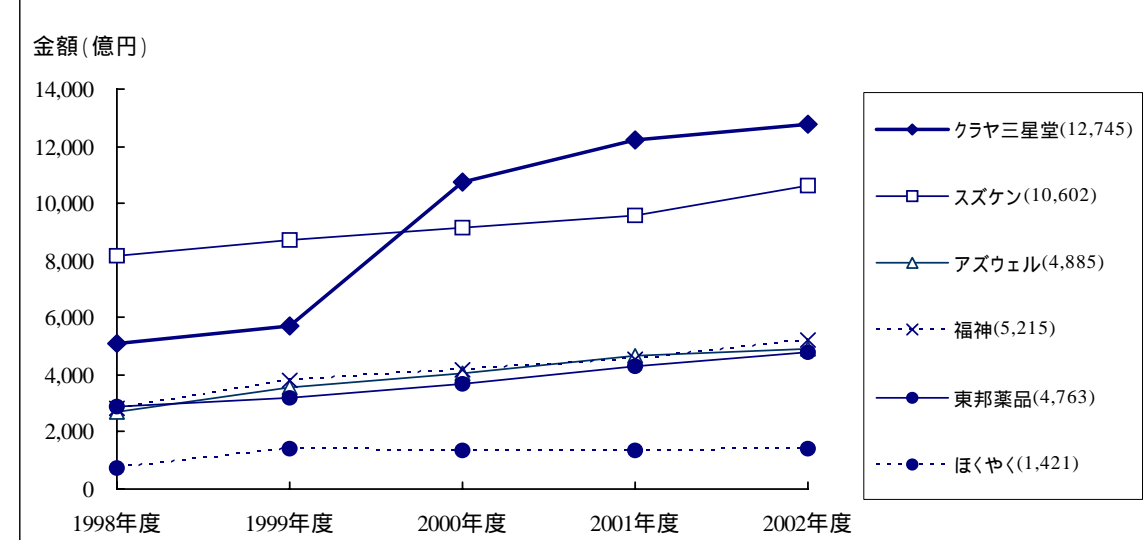
売上高2位のスズケンも2002年度も売上高を伸ばし、過去5年増収である。

その他の企業もすべて、2001年度から2002年度にかけて売上高が上昇した。

図表3-1-1. 製薬メーカー：売上高の推移（連結）



図表3-1-2. 医薬品卸：売上高の推移（連結）



(2) 経常利益の推移

経常利益とは、売上高から売上原価と販売費及び一般管理費を除き、営業外収益と営業外費用を差し引いたものである。ほぼ毎年発生する収入と費用の結果を表している。

製薬メーカー

売上高トップの武田薬品は、経常利益でもトップであり大幅な伸びを続けている。売上高も増加しているが、売上原価を減少させているため、経常利益は大きく伸びている。

1998年度は武田薬品に次いで2位であった三共は、1999年度から2000年度に売上高が減少し、販売費及び一般管理費が増大したため、経常利益を大きく落とした。その後、売上高は若干回復したものの、経常利益は減少を続けている。

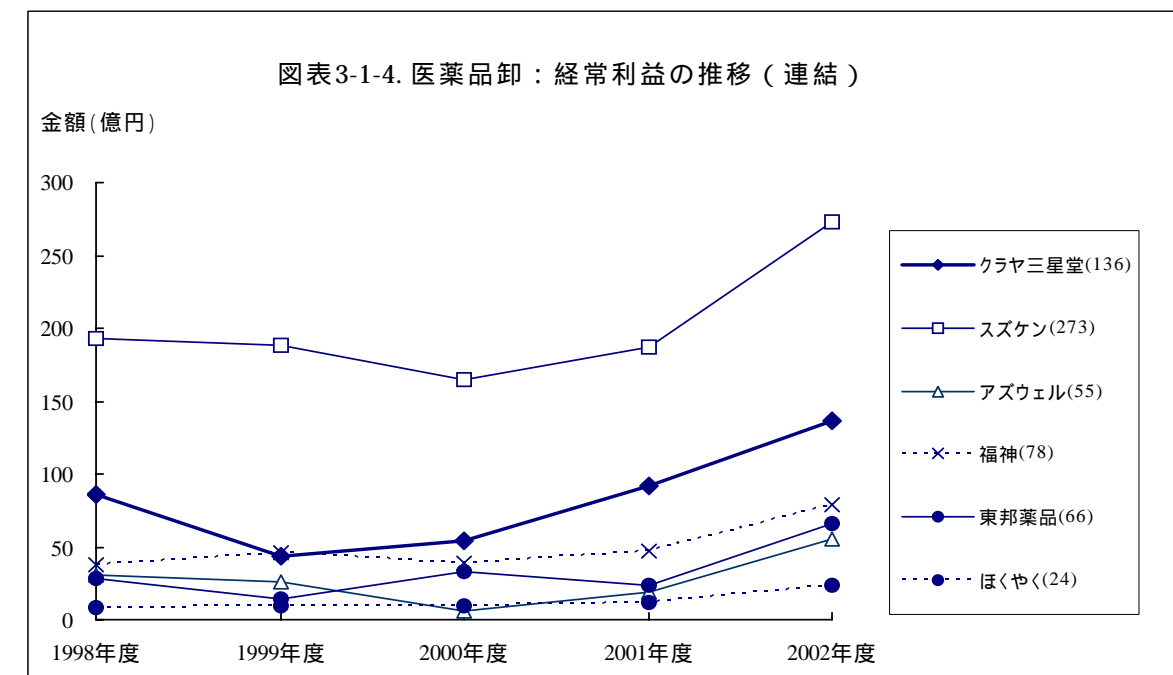
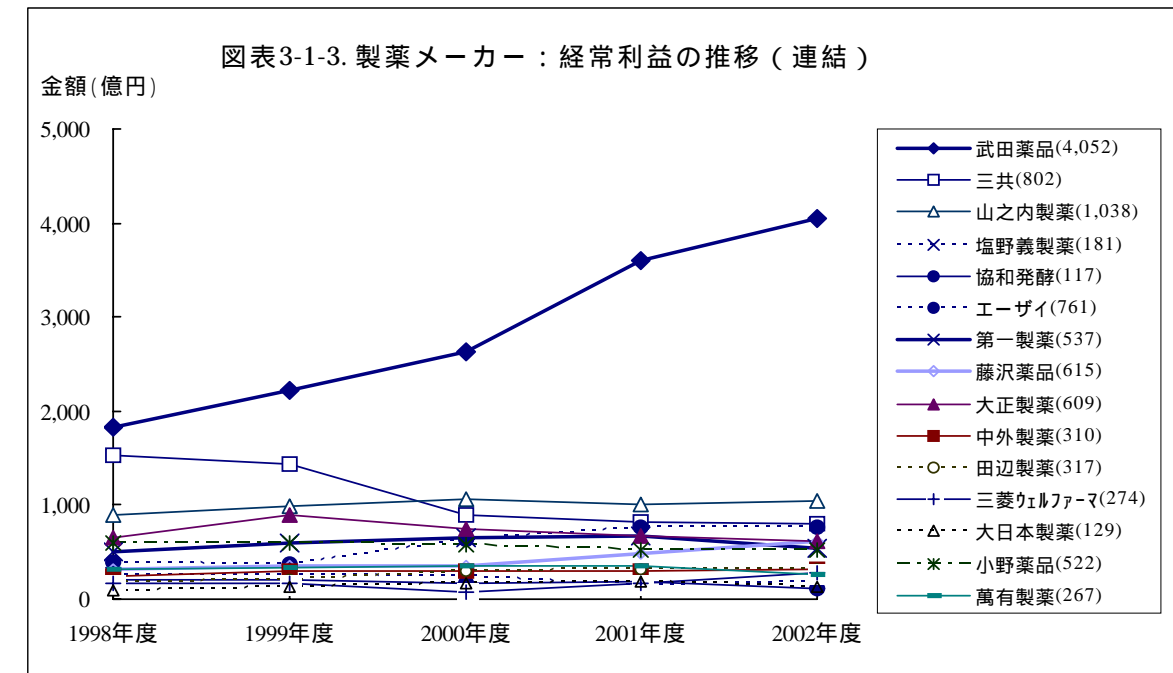
医薬品卸

大手6社すべて経常利益が増加している。

経常利益がもっとも高いのは売上高2位のスズケンである。売上高も伸びているが、本来の事業活動以外の収益である営業外収益が高いことが経常利益の増加に寄与している。

売上高1位のクラヤ三星堂は、売上原価率が高いため2位のスズケンを下回っている。しかし、売上高が増収傾向であり、かつ売上原価は高いもののそれほど増加していないため、2000年の合併以降増益傾向である。

東邦薬品は2000年度から2001年度にかけて、売上原価が増加したため経常利益を落としたが、2001年度から2002年度にかけては経常利益が回復した。





(3) 販売費及び一般管理費率の推移

売上高に占める販売費及び一般管理費の推移を示している。

製薬メーカー

各社とも、30.0%から60.0%の間であり、過去5年間大きな変動はない。

製薬メーカー大手15社の平均は45.8%であり、もっとも高いのはエーザイの61.8%であった。エーザイは他に比べて販売促進費が高く、人件費も高いために販売費及び一般管理費率が高くなっている。

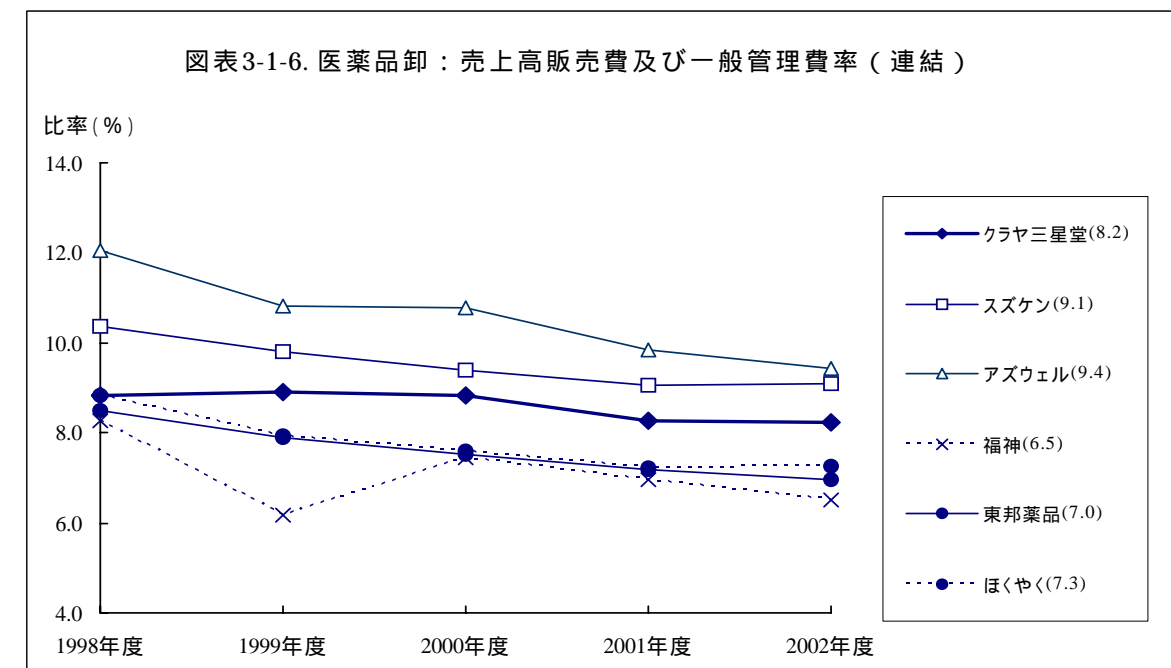
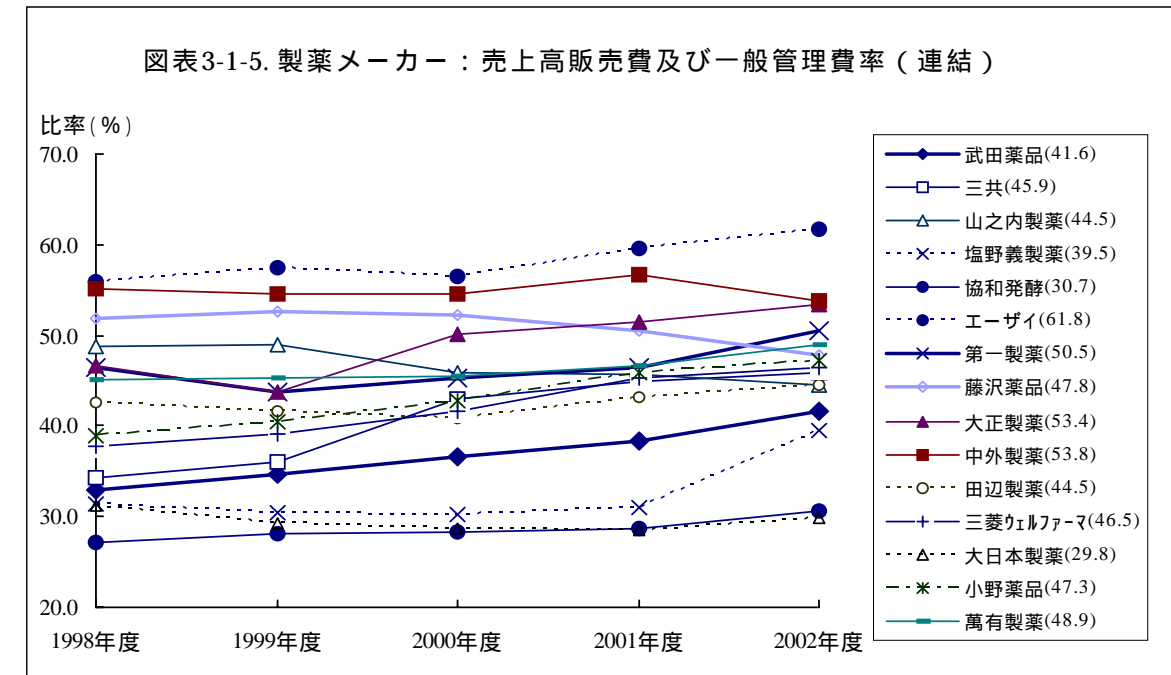
大日本製薬と、医薬品以外の売上高が大きい協和発酵は、販売費及び一般管理費率が30%前後と低位安定である。

塩野義製薬は、売上高が減少したために2001年度から2002年度にかけて販売費及び一般管理費率が上がった。

2001年度から2002年度にかけては、山之内製薬、藤沢薬品、中外製薬で販売費及び一般管理費率が下がったが、他の企業では微増傾向である。

医薬品卸

医薬品卸大手6社の販売費及び一般管理費率の平均は7.9%であった。2001年度の平均は8.1%であり、全社とも減少傾向である。売上高の伸び(前年度比平均8.0%増)が販売費及び一般管理費の伸び(前年度比平均5.9%増)を上回ったからである。



## 2. 収益性

### (1) 売上高総利益率【売上総利益(売上高-売上原価)÷売上高】

売上高に占める売上総利益の割合を示したものである。売上総利益とは、売上高から売上を得るために直接必要なコスト(原価)を引いたものである。人件費などの管理費にどれくらいつぎこめるかを示している。

#### 製薬メーカー

もっとも売上高総利益率が高いのは小野薬品の84.8%で、ほぼ横這いで推移している。小野薬品は、他社と比較して売上原価が非常に小さく、そのため売上高総利益率が高くなっている。

塩野義製薬は2001年度36.9%であったが、2002年度には46.2%へと向上している。売上高が下がったものの、売上原価を前年度に比べて44.0%(1,203億円)減らしたためである。

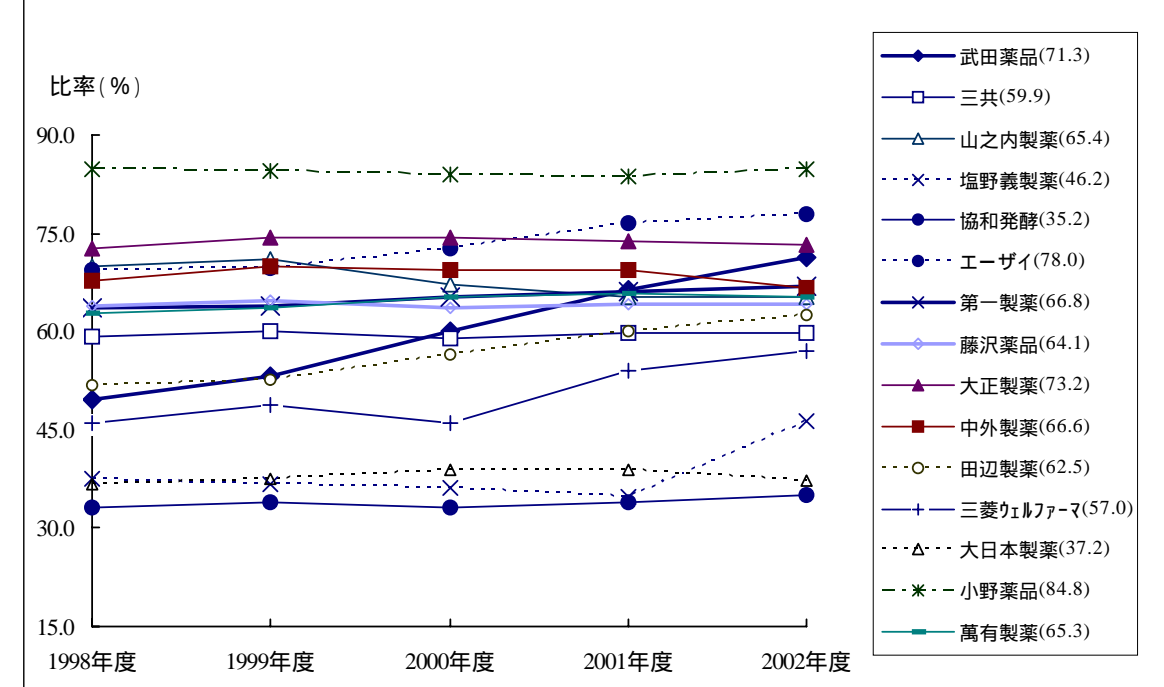
武田薬品は1998年度以降、着実に売上高総利益率を伸ばしている。売上高が増加しており、かつ売上原価を2000年度以降毎年減少させている。商品の仕入高を見ると、医薬事業の医療用医薬品が若干増加しているが、ヘルスケア事業及び、フード・ビタミン事業での仕入高が大幅に減少している。

医薬品以外の売上高が大きい協和発酵は35.2%と低く、大日本製薬は協和発酵とほぼ同じ水準である。その他はおおむね60%から70%であり、かつ横這いである。

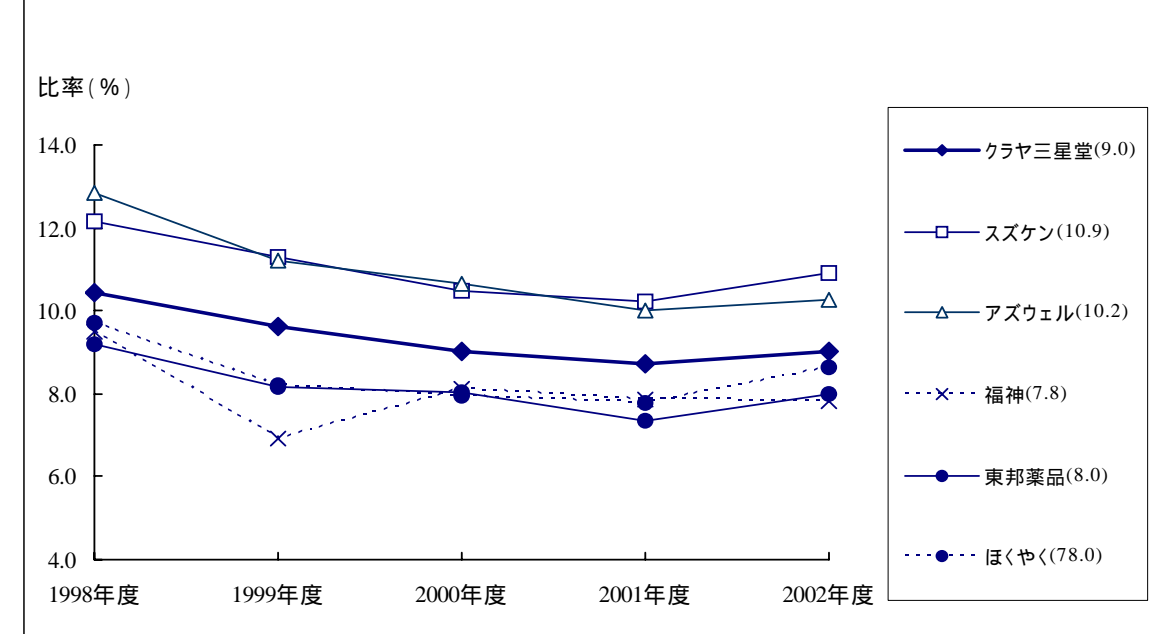
#### 医薬品卸

もっとも売上高総利益率が高いのは、売上高2位のスズケンである。スズケンは売上高の伸びが6社中2位であり、売上原価を売上高で割った売上高原価率は6社中もっとも低い。一方、売上高1位のクラヤ三星堂は売上高原価率がスズケンより高く、売上高総利益率ではスズケンを下回っている。

図表3-2-1. 製薬メーカー：売上高総利益率(連結)



図表3-2-2. 医薬品卸：売上高総利益率(連結)



(2) 売上高経常利益率【経常利益÷売上高】

売上高に対して経常利益がどのくらいあるかを示している。経常利益とは毎年経常的に得られる利益である。一般に、10%以上であれば優良だといえる。

製薬メーカー

武田薬品の2002年度売上高経常利益率は38.7%であり、過去5年増加を続けている。研究開発費の増加などで販売費及び一般管理費はそれほど抑えられていないが、営業外収益が大きいため経常利益が伸びている。

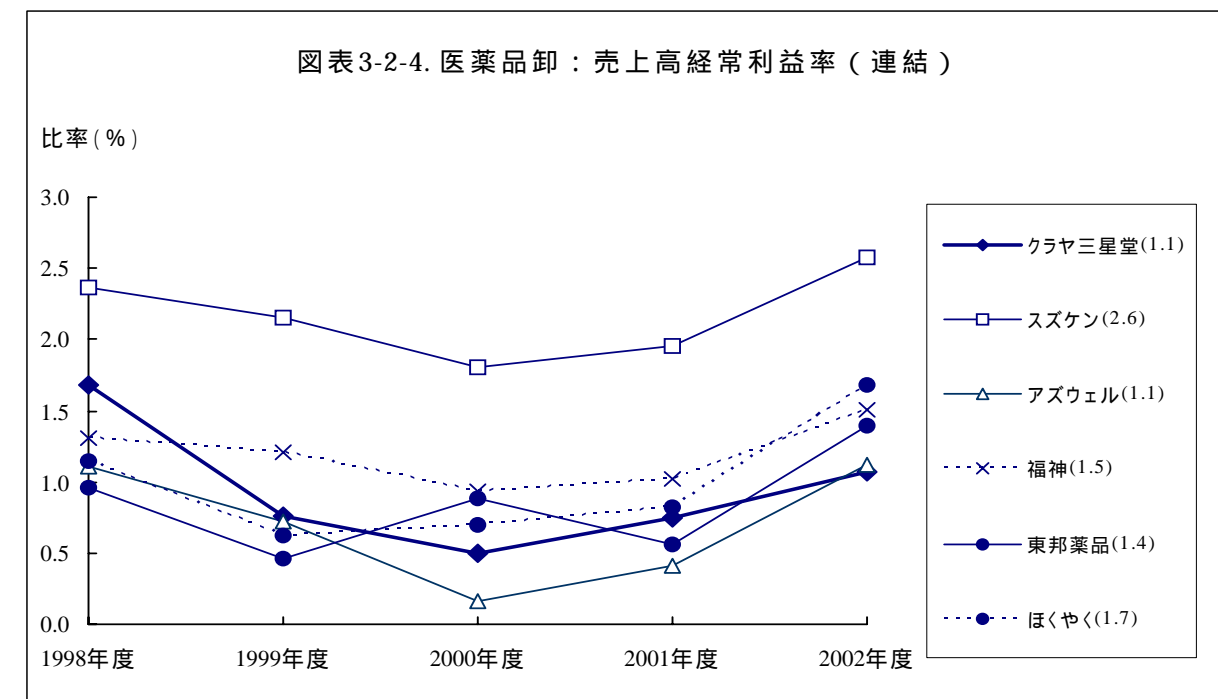
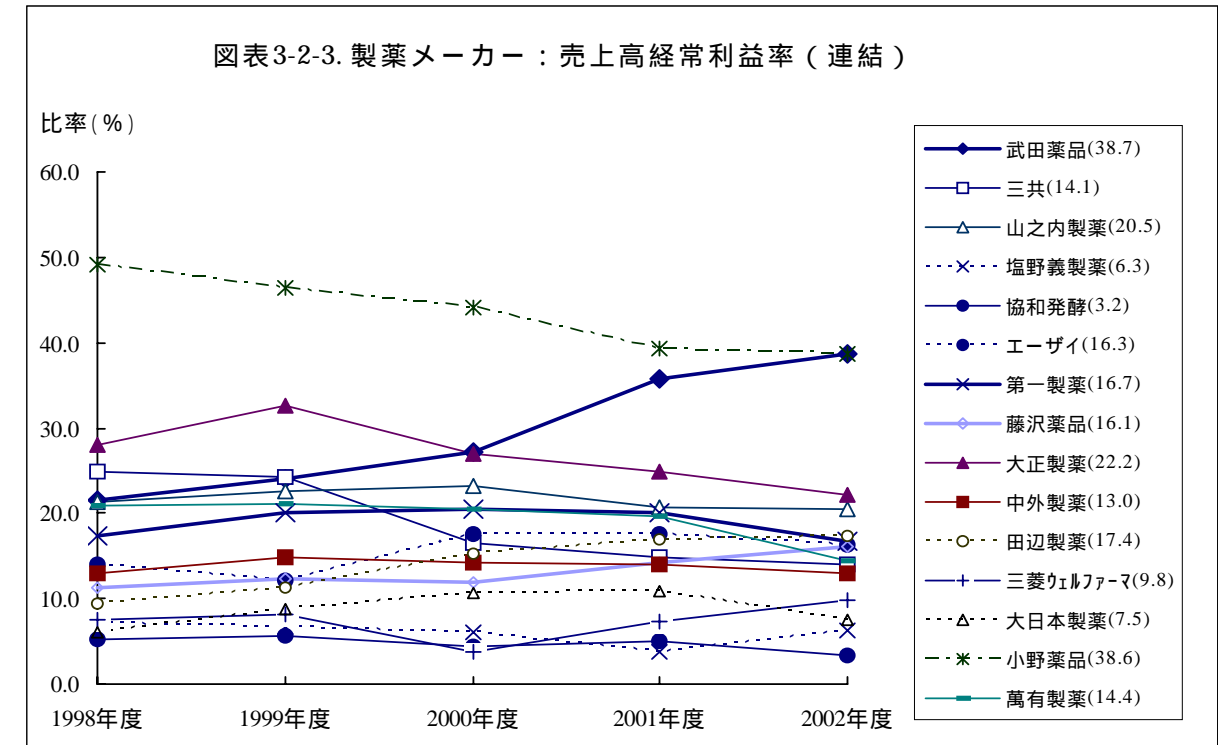
1998年度に売上高経常利益がトップであった小野薬品は下降を続けている。売上高の伸びが鈍っている上、販売費及び一般管理費が増加して営業利益が減り、2001年度以降は受取利息などの営業外利益が減少したからである。

その他、萬有製薬、第一製薬、大日本製薬が売上高経常利益率を下げている。

医薬品卸

医薬品卸の経常利益率は、もっとも高いスズケンでも2.6%である。スズケンが高いのは、売上高原価率が6社中もっとも低く、売上総利益が高いことに加え、本来の事業以外の収益である営業外収益が多いためである。

2001年度から2002年度にかけては、医薬品卸大手6社すべてで売上高経常利益率が向上している。



(3) 総資本事業利益率【事業利益(営業利益+受取利息・配当金)÷期首期末平均総資本】

事業利益とは売上総利益から販売費及び一般管理費を引いた営業利益に、資本をつぎ込んだ結果得られる受取利息や配当金を足したものである。

総資本事業利益率は、負債と株主資本を含めて投下した全ての資本から、どのくらいの利益があがったかを示している。

製薬メーカー

売上高経常利益率がもっとも高い武田薬品が、総資本事業利益率ももっとも高く 15.9%である。2000年度以降、藤沢薬品と三菱ウェルファーマが増加しているが、その他はおおむね横這いである。

藤沢薬品は国内の医療用医薬品売上高と海外輸出が伸びたことにより大幅に増益となったが、総資本はそれほど増加していないために総資本事業利益率が高くなった。

三菱ウェルファーマは 2001 年の合併で事業規模が拡大して大幅に増益となったが、借入金の返済などで資産を圧縮し、総資本事業利益率を伸ばしている。

医薬品卸

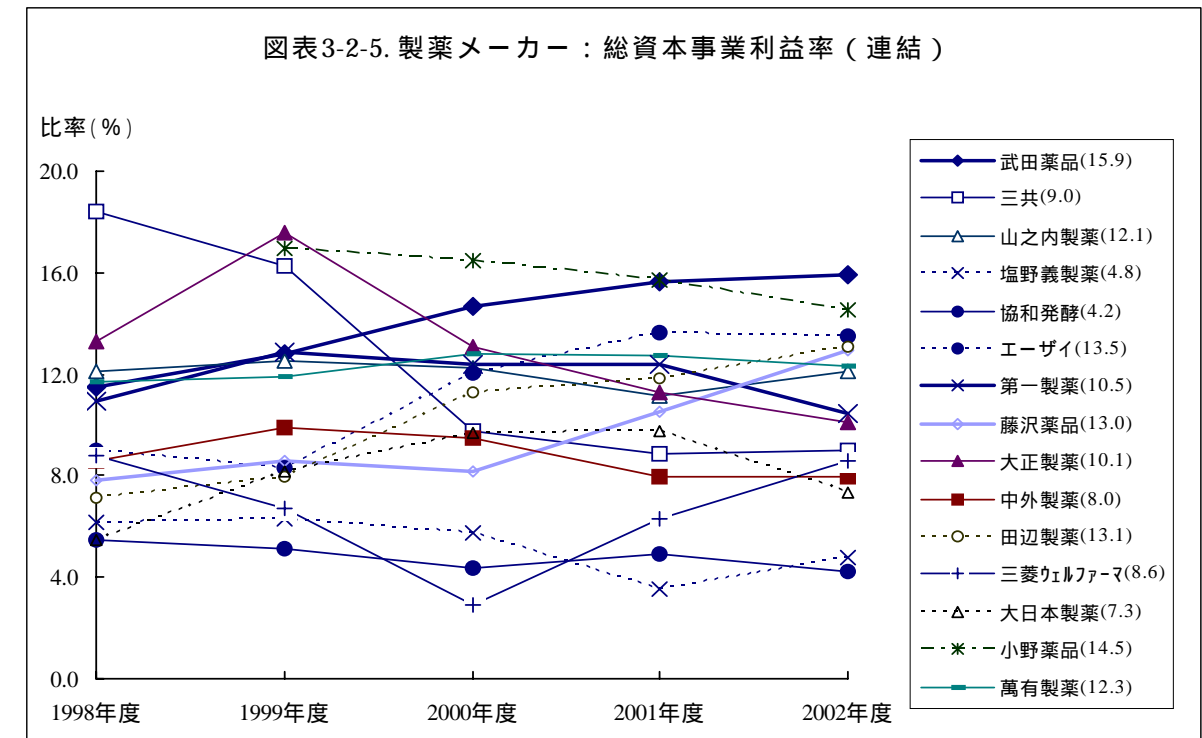
2001 年度から 2002 年度にかけては 6 社すべてで総資本事業利益率が向上した。6 社すべて増収であり営業利益を大幅に伸ばしたが、総資本はそれほど増加していない。

総資本事業利益率がもっとも高いのはスズケンで 3.3%である。スズケンは営業利益の増加に加えて、受取利息・配当金が多い。

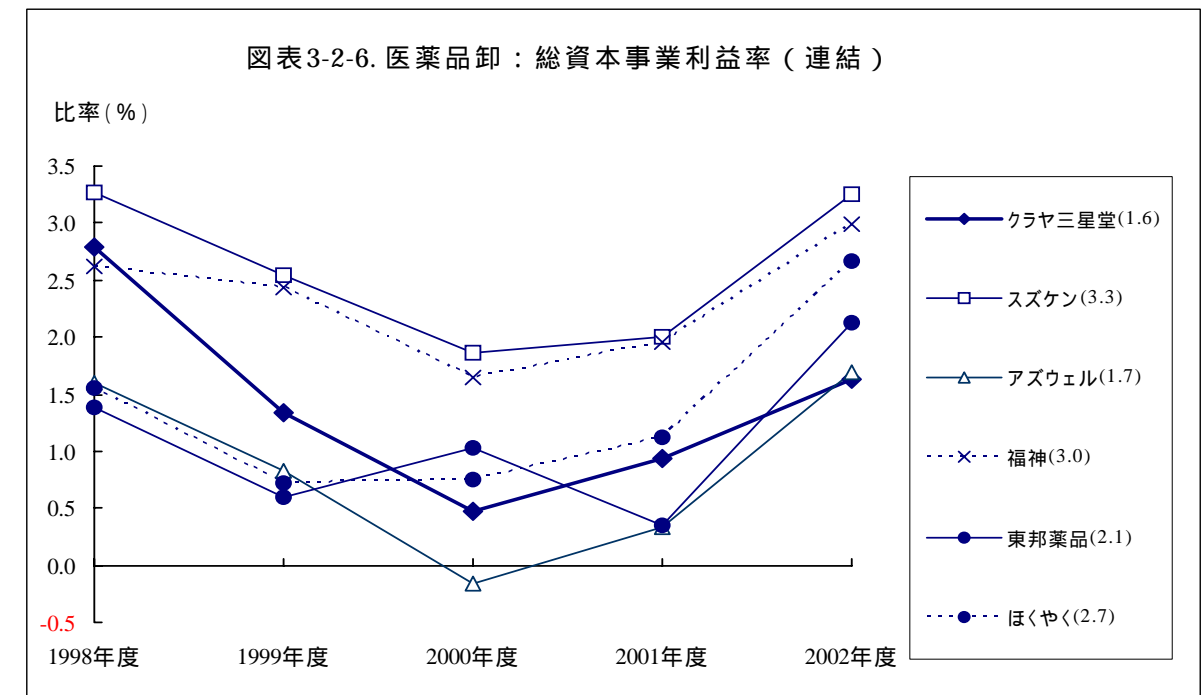
アズウェルは 2000 年度に販売費及び一般管理費の増加で営業利益がマイナスになり、かつ総資本が増加したために総資本営業利益率もマイナスとなった。2001 年度からは回復し、2002 年度は営業利益が増加して最下位を脱却した。

もっとも低いのは、売上高トップのクラヤ三星堂である。クラヤ三星堂は、販売費及び一般管理費が増加して 1999 年度に営業利益が減少した。2000 年には合併のため、総資本が大幅に増加してさらに総資本事業利益率を下げたが、その後、好転している。

図表3-2-5. 製薬メーカー：総資本事業利益率（連結）



図表3-2-6. 医薬品卸：総資本事業利益率（連結）



(4) 株主資本税引後利益率【税引後当期純利益 ÷ 期首期末平均株主資本】

株主資本（自己資本）は、資本金と剰余金の合計である。税引後利益とは税金を払い終わった後の、最終的な利益を指す。

株主資本税引後利益率は、株主資本に対して、どのくらい自由になる利益が残ったかを示すものである。

製薬メーカー

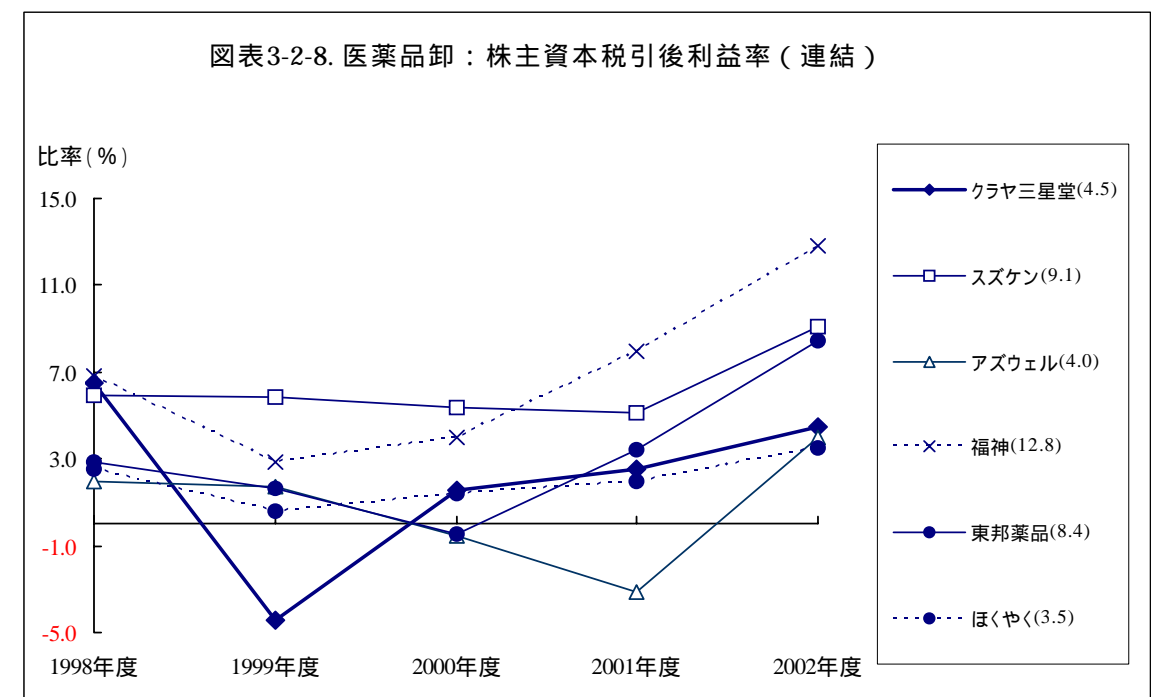
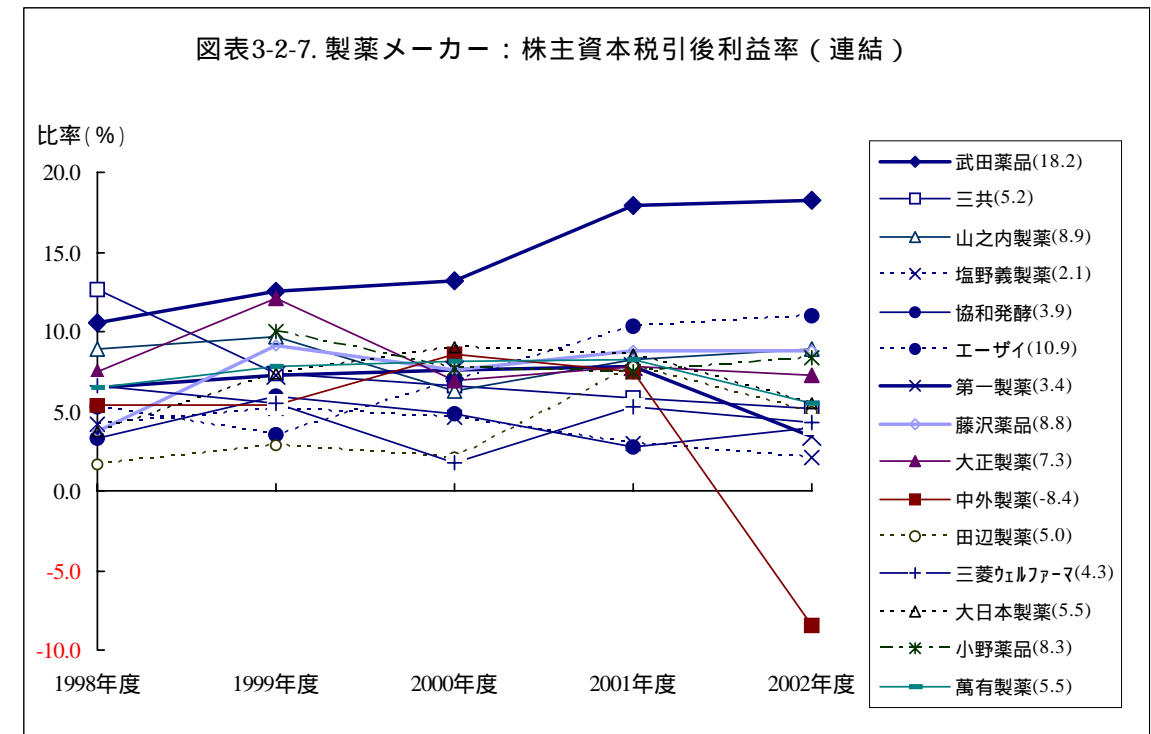
武田薬品が18.2%と最も高く、かつ安定している。2位はエーザイの10.9%である。エーザイは収益性の他の指標も高い。

中外製薬は売上高が増加したにもかかわらず2002年度に大きく下降している。日本ロシュとの合併費用や長期前払費用の一括償却を特別損失に計上し、純利益が大幅に減少したためである。

第一製薬も2002年度に下がっている。経常利益の減少に加えて株式取得に伴う連結調整金を一括償却したことなどで当期純利益が減少したためである。

医薬品卸

最も高いのは福神の12.8%であった。福神は、売上高経常利益率は他に比べてあまり高くないが、総資本事業利益率、株主資本比率は高い。利益に対して、総資本、株主資本が小さいためである。



### 3. 安全性

#### (1) 流動比率【流動資産÷流動負債】

1年以内に返済しなければならない負債(流動負債)に対して、1年以内に現金化できる財産(流動資産)がどのくらいあるかという支払能力を示している。流動資産の中には棚卸資産のように、すぐに現金化できないものもあるので、流動負債の2倍、つまり200%以上が望ましい。

##### 製薬メーカー

製薬メーカーは、ほとんどが目標値の200%を上回っている。

もっとも高いのは小野薬品で623.7%であった。小野薬品は他社に比べて流動負債が非常に少ないために流動比率が高くなっている。

2位は大正製薬の534.2%であった。支払手形・買掛金などが減少したために流動負債が減少し、流動比率を伸ばしている。

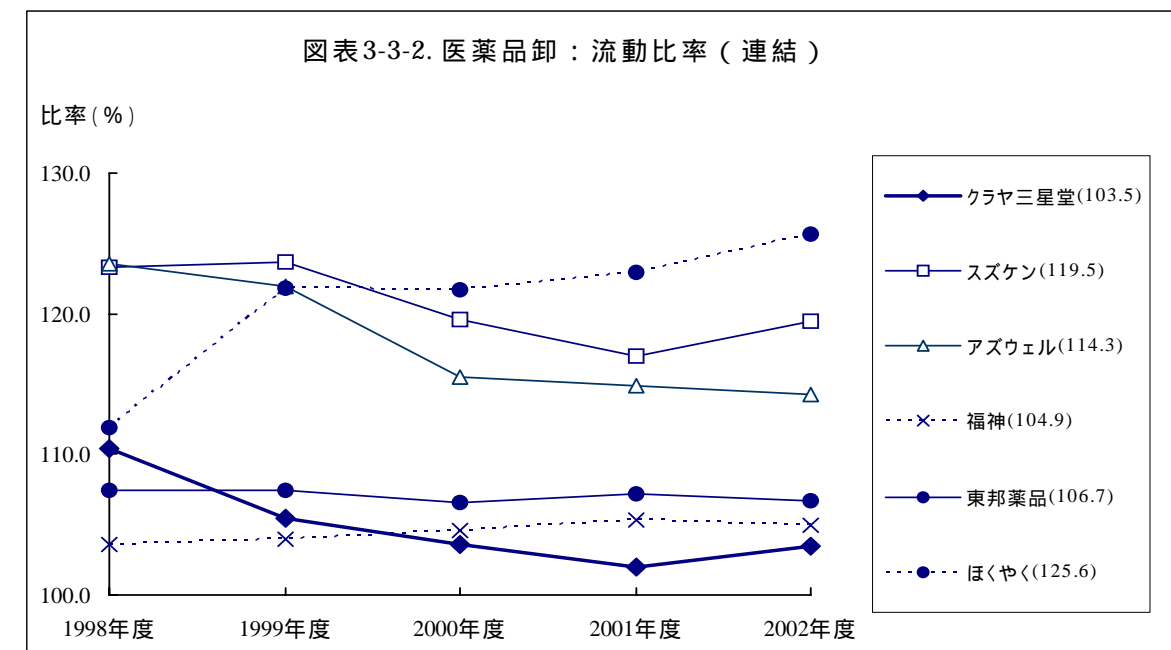
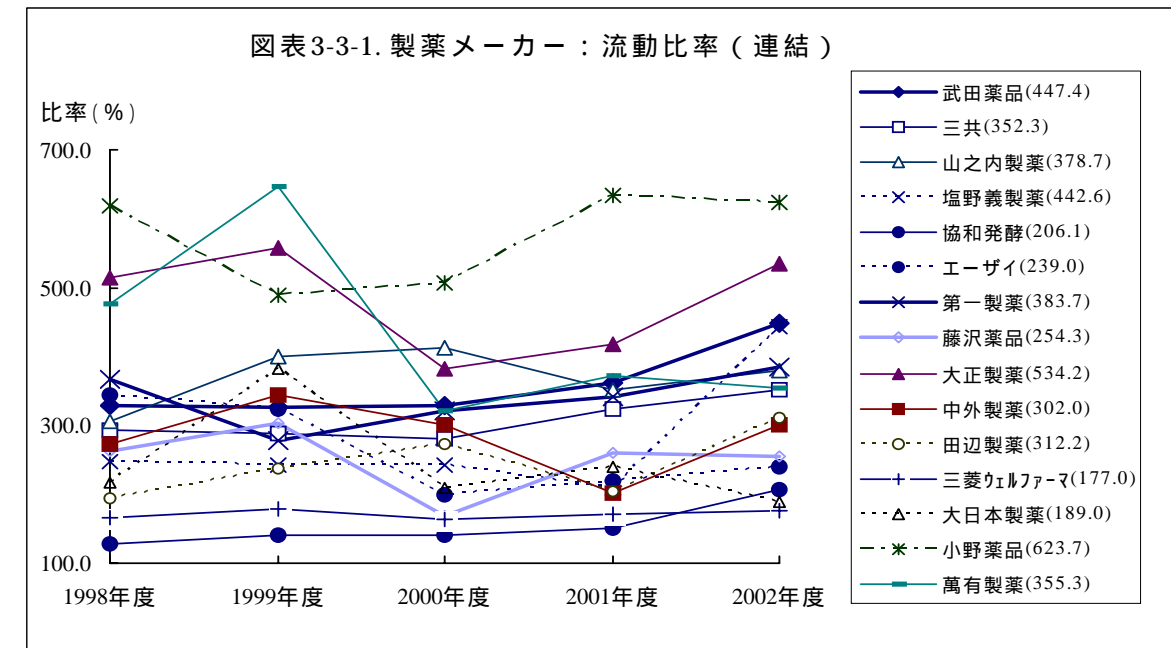
塩野義製薬は2001年度に210.4%であったが2002年度には442.6%と大幅に高くなった。塩野義製薬も支払手形・買掛金、短期借入金などが減少し、流動負債が少なくなったためである。

##### 医薬品卸

6社すべて目標の200%を下回っている。医薬品卸は流動負債が多い。流動負債の多くは製薬メーカーへの買掛金である。医薬品卸は製薬メーカーに対して、4、5か月ほども支払を猶予されている。(26頁図表3-4-5参照)

2000年度以降、ほくやくがトップを保っており2002年度は125.6%であった。ほくやくは1999年度以降、現金・預金などの流動資産が大幅に増加しているからである。

医薬品卸大手6社中もっとも低いのはクラヤ三星堂で、103.5%であった。クラヤ三星堂は支払手形・買掛金が非常に大きく、そのために流動比率が低くなっている。





(2) 株主資本比率【株主資本÷総資本】

株主資本（自己資本）は資本金と剰余金の合計である。株主資本比率は、総資本のうち株主資本が占める割合を示している。

株主資本は返済のない資本なので、この指標が高いほど安全性が高い。

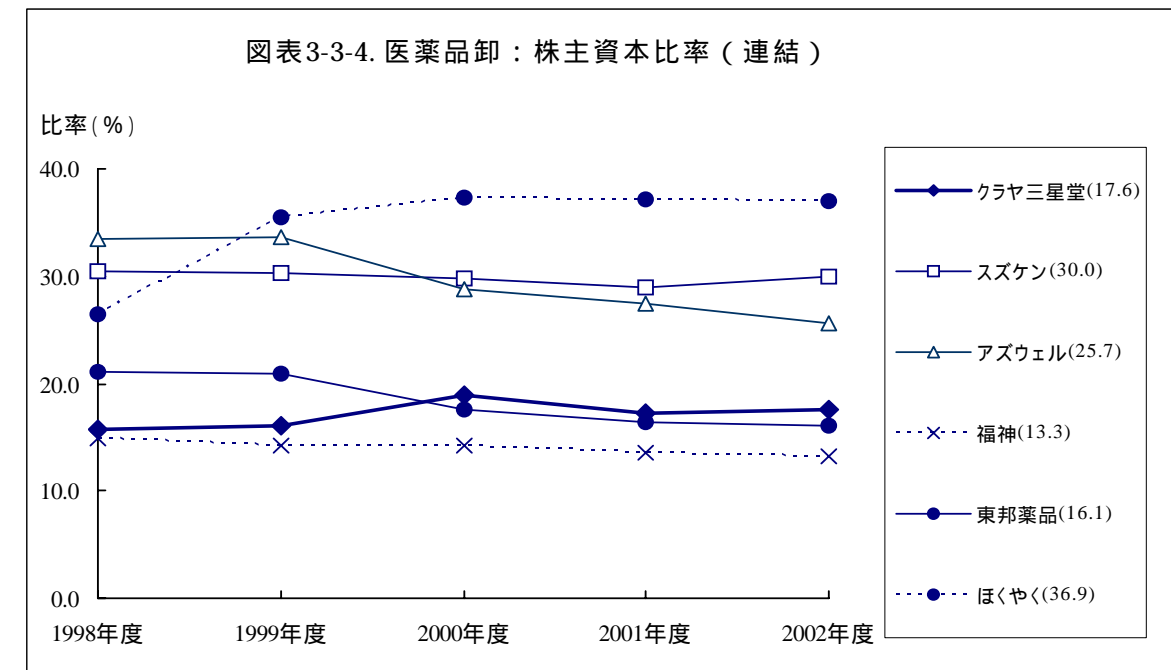
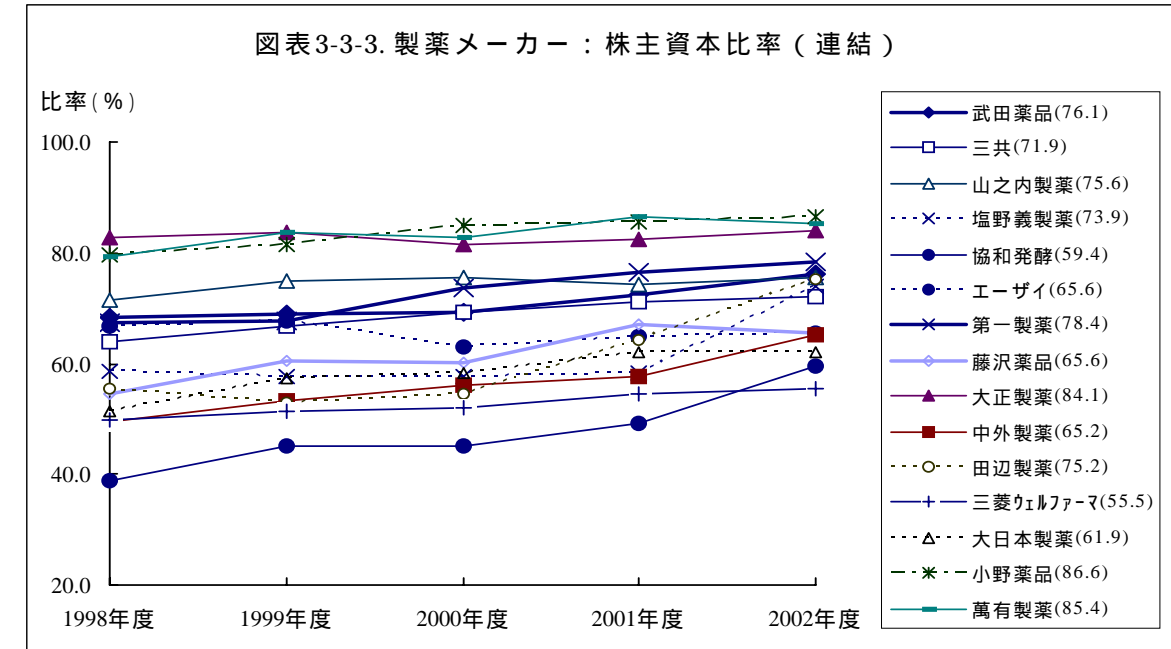
製薬メーカー

製薬メーカー大手 15 社の平均は 72.0% であり、全体に右肩上がりである。

比較的売上規模の小さい小野薬品、萬有製薬では、株主資本比率が 80% を超えている。両社とも長期借入金、短期借入金のまったくない無借金経営である。

医薬品卸

もっとも高いのはほくやくで、36.9% であった。もっとも低いのは福神で 13.3% である。医薬品卸は、借金そのものは小さいが、製薬メーカーへの買掛金（流動負債）が大きいため、総資本が膨らみ株主資本比率が下がっている。





(3) 借入金依存度【(長期借入金+短期借入金)÷総資本】

総資本のうち、利子を払わなければならない借入金(有利子負債)がどれくらいあるかを示している。有利子負債が多いと、返済に縛られるだけでなく、金利変動の影響も受けやすい。借入金依存度が低い方が安全性は高い。

製薬メーカー

エーザイ、第一製薬、小野薬品、萬有製薬は無借金経営である。

武田薬品、塩野義製薬、大正製薬、大日本製薬も、短期借入金のみで長期借入金は無い。

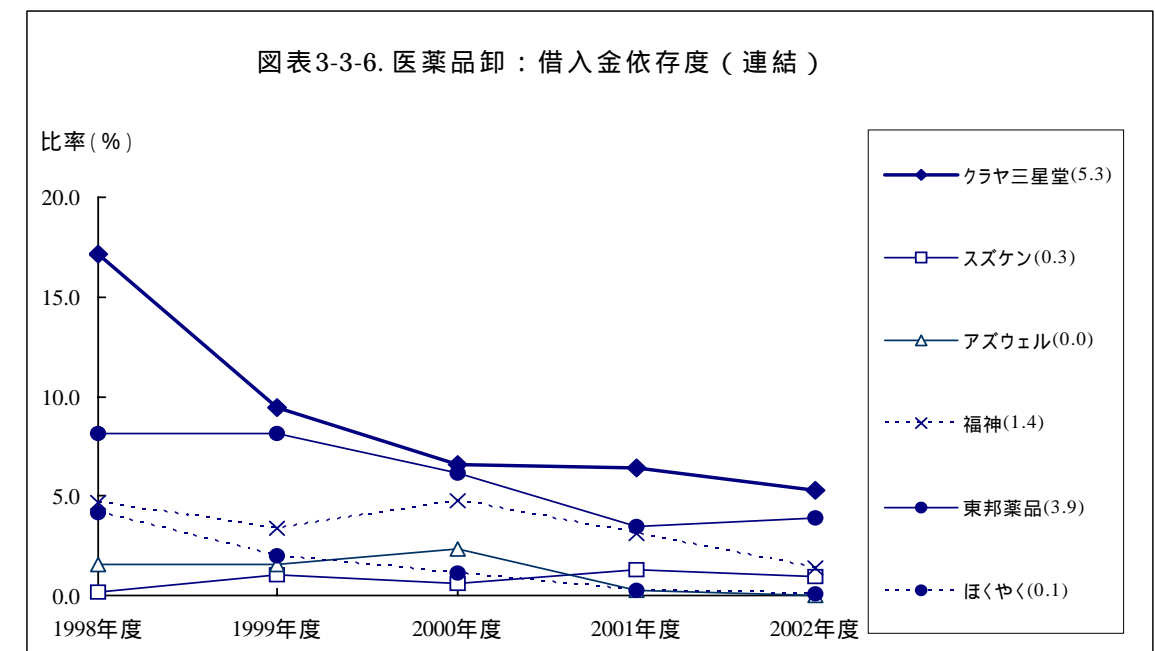
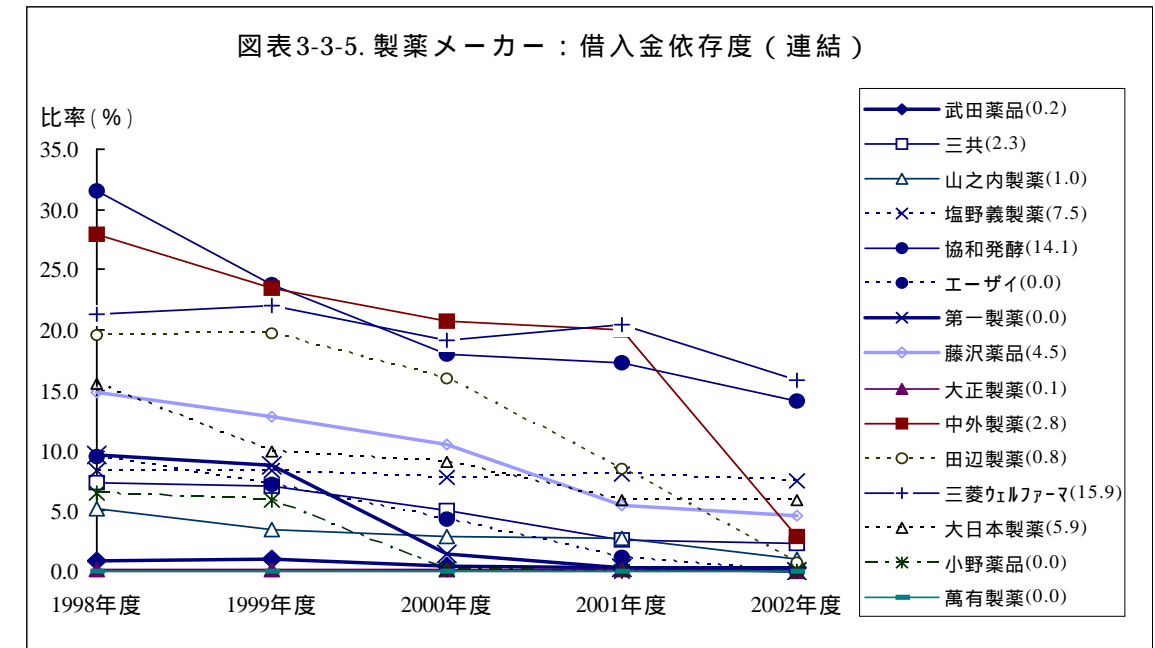
このような中、三菱ウェルファーマは借入金依存度が15.9%ともっとも高い。しかし、2001年度から2002年度にかけては、長期借入金も短期借入金も減少したために借入金依存度が若干改善した。

また、中外製薬は転換社債の償還によって借入金が増加しており、2001年度の20.1%から2002年度は2.8%と大きく改善した。

医薬品卸

成和は無借金経営、ほくやくも0.1%と非常に低い。8社いずれも借金はほとんどない。

しかし、製薬メーカーへの支払は約4、5か月ほど猶予されており、医薬品卸は事実上、製薬メーカーから仕入れ4、5か月分のお金を借りているようなものである。



(4) キャッシュフロー

キャッシュフローとは、お金の流れを見るものである。資金が入るのをキャッシュインと呼び、出ることをキャッシュアウトと呼ぶ。期首資金に期中資金を増減し、期末にどれくらい増えたか(または減ったか)を見る指標である。ここでは、期首から期末までの増減額である「現金及び現金同等物の増減額」をキャッシュフローとして示した。

製薬メーカー

武田薬品が3,246億円ともっとも高いが、税金や配当金の支払いが増加したことから若干キャッシュフローを減少させた。

三共、中外製薬、小野薬品、萬有製薬は前年度マイナスからプラスへと転じている。逆にマイナスへ転じたのは協和発酵、田辺製薬である。協和発酵は従業員預金を外部移管したり、転換社債を償還したりしたためにキャッシュアウトが増加した。田辺製薬は設備投資や借入金の返済などでキャッシュアウトを増加させた。

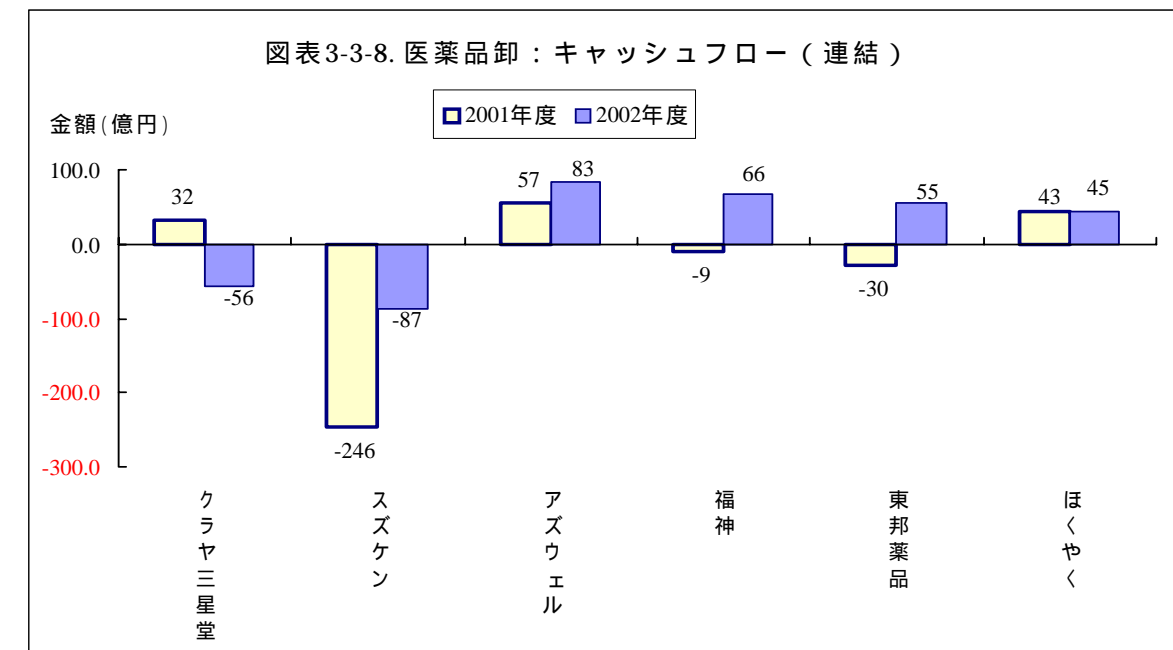
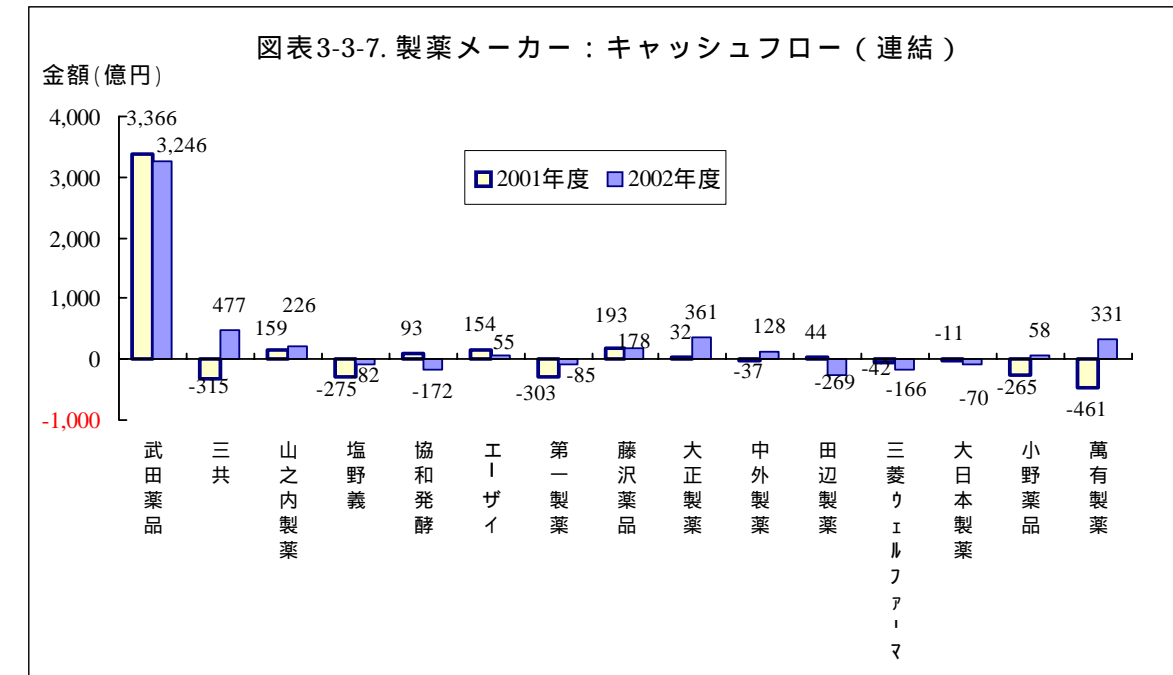
製薬メーカー大手15社のうち、プラスの企業は9社である。マイナスの企業は2001年度に8社あったが、2002年度は6社へ減少した。

医薬品卸

医薬品卸は6社中4社がプラスであった。

アズウェル、ほくやくは2年連続プラスであった。アズウェルは主に仕入債務の増加、棚卸資産の増加といった営業活動、有形固定資産や有価証券の売却、貸付金の回収といった投資活動でキャッシュインを増やした。ほくやくは、主に当期純利益の増加と売上債権の減少などで2002年度のキャッシュインが増加した。

2002年度マイナスに転じたクラヤ三星堂は、短期借入金の返済や自己株式取得などでキャッシュアウトが増加した。



#### 4. 効率性

##### (1) 総資本回転率【売上高÷期首期末平均総資本】

つぎこんだ全ての資本がどのくらい活用されたかを、売上高に対する使用回数で示したものである。

総資本の額と売上高が同じであれば、ちょうど売上高 1 回分の資本を使ったということになる。総資本回転率は 1 回以上であることが望ましい。

##### 製薬メーカー

製薬メーカー大手 15 社の 2002 年度総資本回転率は、平均で 0.7 回であった。

もっとも高いのは大日本製薬の 0.9 回である。大日本製薬は利益剰余金が少なく、総資本が小さいため、総資本回転率が大きく出ている。

もっとも低いのは小野薬品で、2002 年度は 0.4 回であった。売上高が同規模の大日本製薬と比べて総資本が大きく、特に利益剰余金が多いためである。

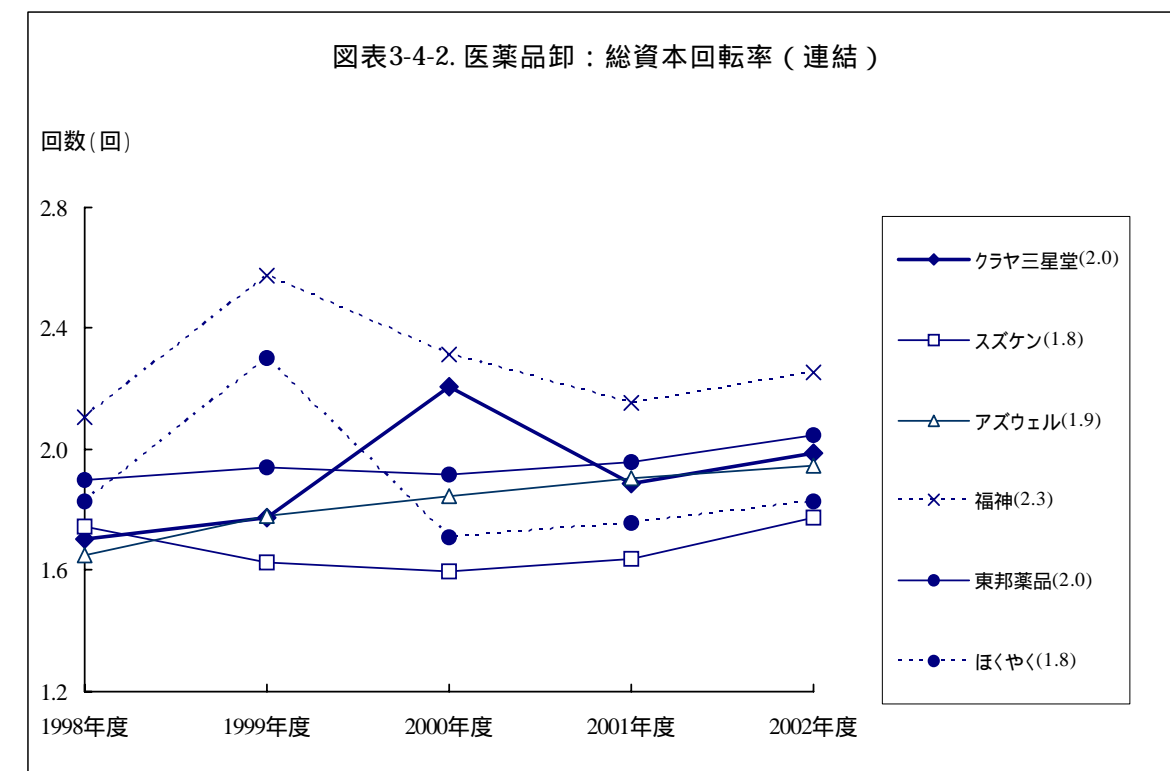
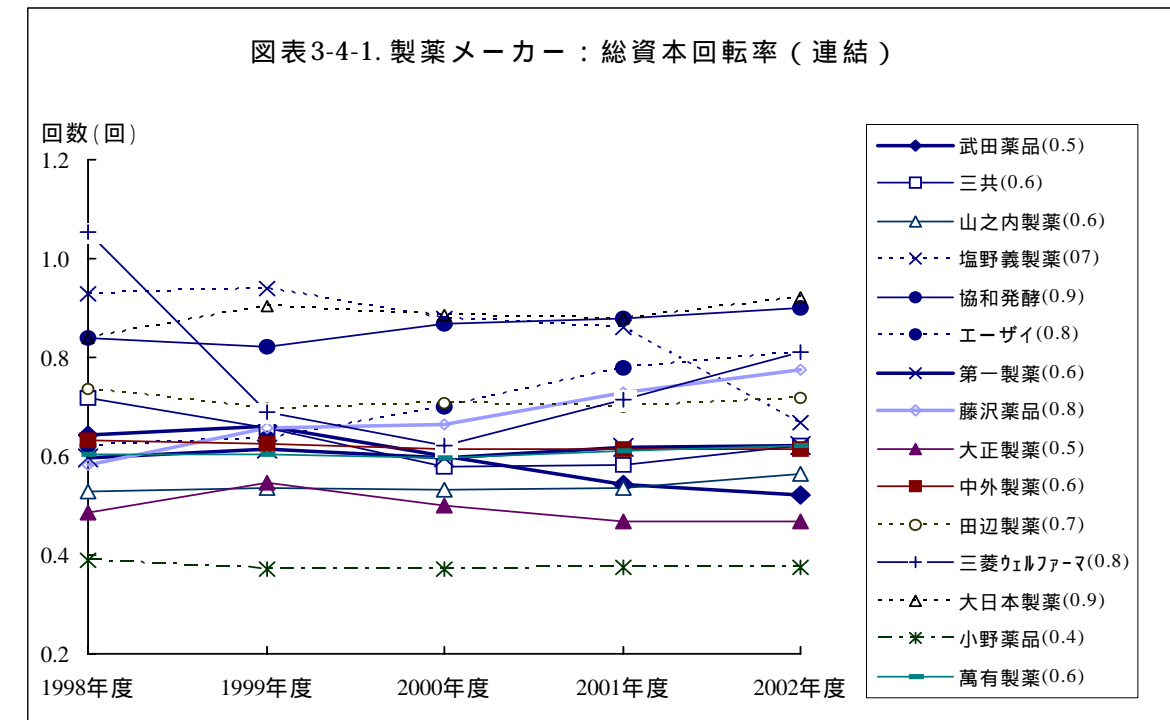
塩野義製薬が 0.9 回から 0.7 回に減少しているが、売上高が大幅に減少したことが原因である。

##### 医薬品卸

医薬品卸は、製薬メーカーに比べると設備などの固定資産があまりかからず、総資本も大きくない。このため、6 社すべてで総資本回転率が 1 回を超えている。また、2001 年度から 2002 年度は、売上高の増加により 6 社すべてで総資本回転率が増加している。

もっとも高いのは福神の 2.3 回で、資本規模が同じくらいのアズウェルに比べ売上高が大きいため、総資本回転率が高くなった。

もっとも低いスズケンでも 1.8 回であった。



( 2 ) 棚卸資産回転月数【期首期末平均棚卸資産 ÷ ( 売上高 ÷ 12 )】

棚卸資産とはいわゆる在庫のことである。すぐに販売できる製品・商品の他に、原材料、仕掛品、貯蔵品などこれから加工するものもある。これらの在庫が何か月で売上高を得ているかを示しており、短かすぎても長すぎてもよくない。

製薬メーカー

製薬メーカー大手 15 社は、在庫がおおよそ 1 か月から 2 か月で回転している、

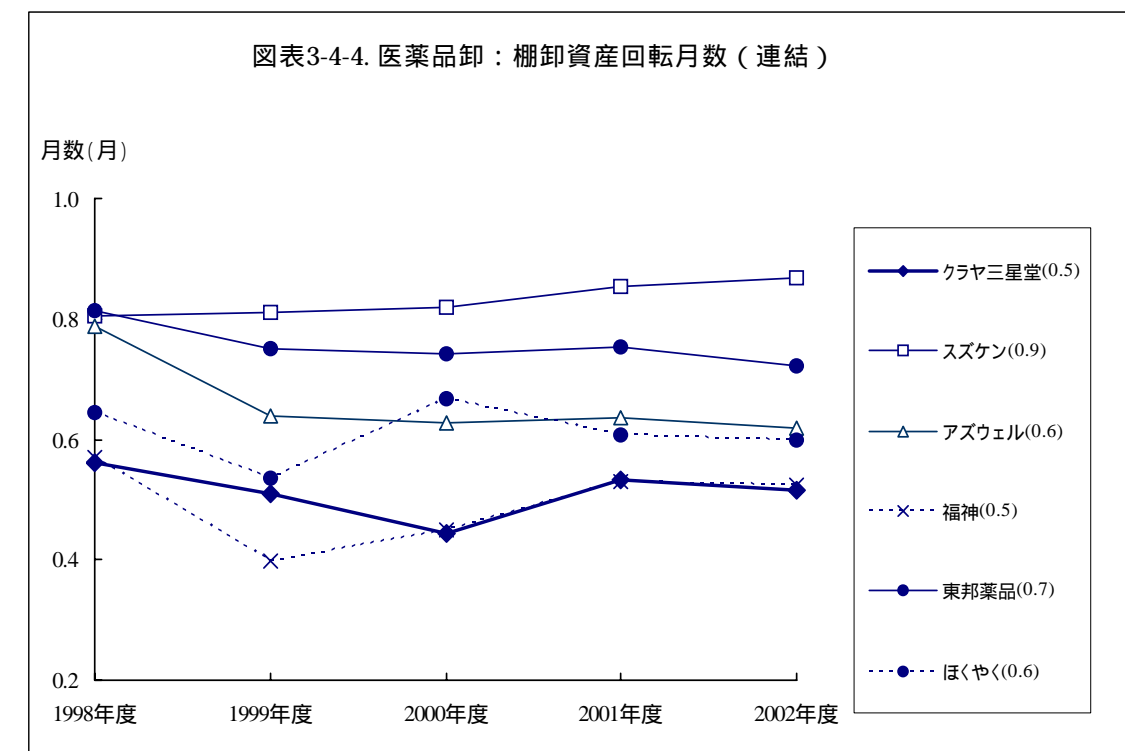
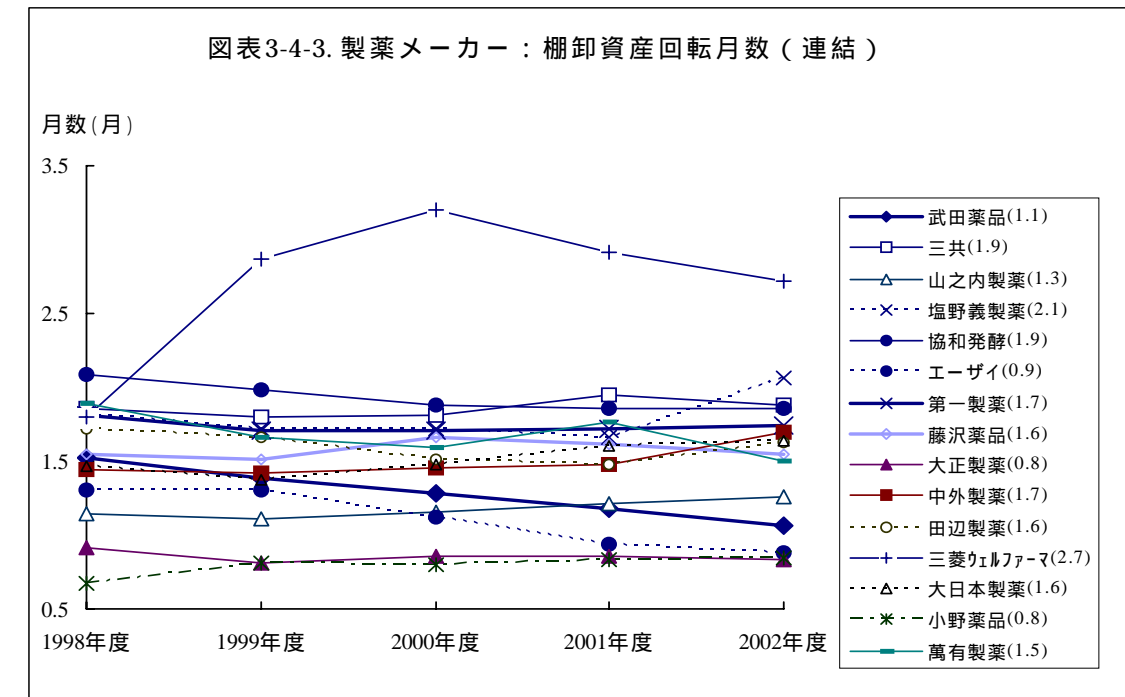
棚卸資産回転月数がもっとも長い三菱ウェルファーマは、1998 年と 2001 年の合併時にそれぞれ在庫が増加している。売上高が上昇しているため棚卸資産回転月数は若干短くなりつつあるが、2.7 か月かかっている。

2 番目に長い塩野義製薬は、棚卸資産は若干減少したものの、売上高を大幅に落としたために 2001 年度から 2002 年度にかけて棚卸資産回転月数を伸ばした。

棚卸資産回転月数が 0.8 か月ともっとも低い小野薬品、大正製薬は、棚卸資産が非常に少ない。

医薬品卸

医薬品卸大手 6 社の 2002 年度平均は 0.6 か月であった。医薬品卸は、製薬メーカーから仕入れた在庫を、約 20 日間で医療機関に流していることになる。



( 3 ) 仕入債務回転月数【期首期末平均仕入債務(支払手形・買掛金)÷(売上高÷12)】

仕入債務回転月数は、医薬品卸が製薬メーカーから仕入れ、何か月後に支払っているかを示している。

医薬品卸

2002年度の医薬品卸大手6社平均は4.6か月であった。医薬品卸は、製薬メーカーから商品を仕入れて4、5か月も後に支払いをしている。このため、医薬品卸は手元資金に余裕があり、ほとんど無借金経営ですんでいる。

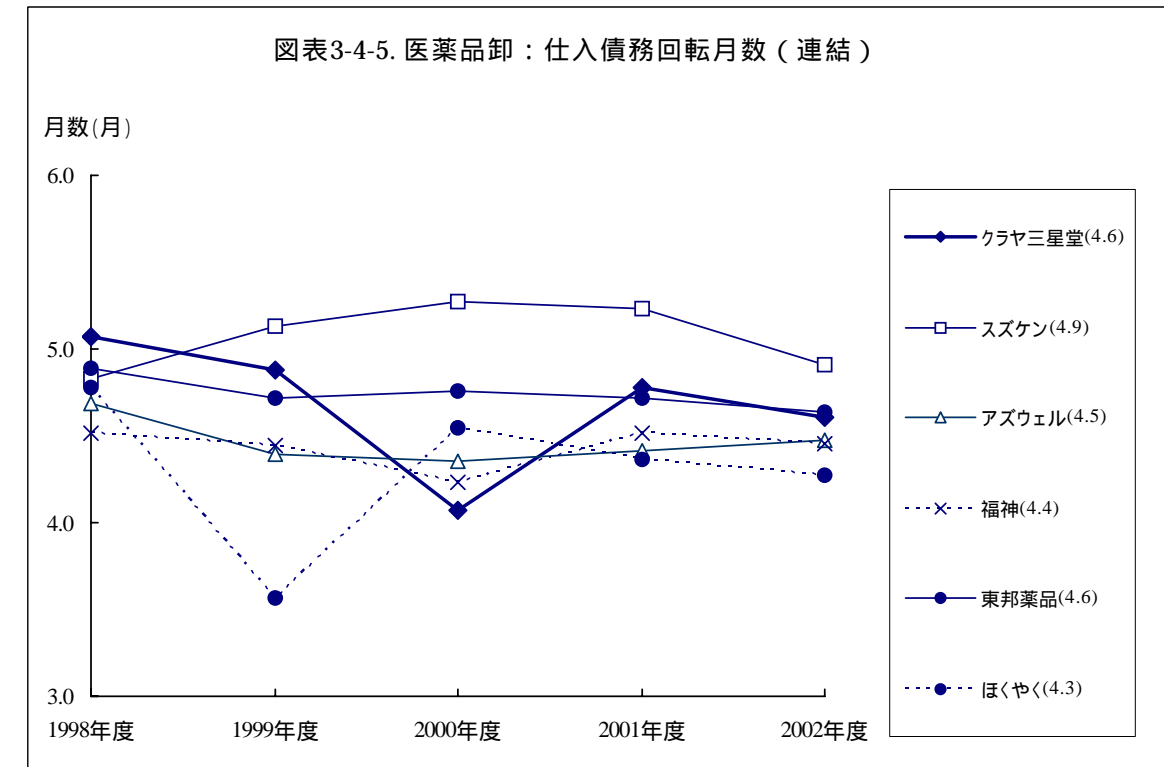
( 4 ) 売上債権回転月数【期首期末平均売上債権÷(売上高÷12)】

製品・商品が販売された後、何か月でその代金が回収されるかを示している。短ければ、それだけ早く医療機関から代金を回収しているということである。

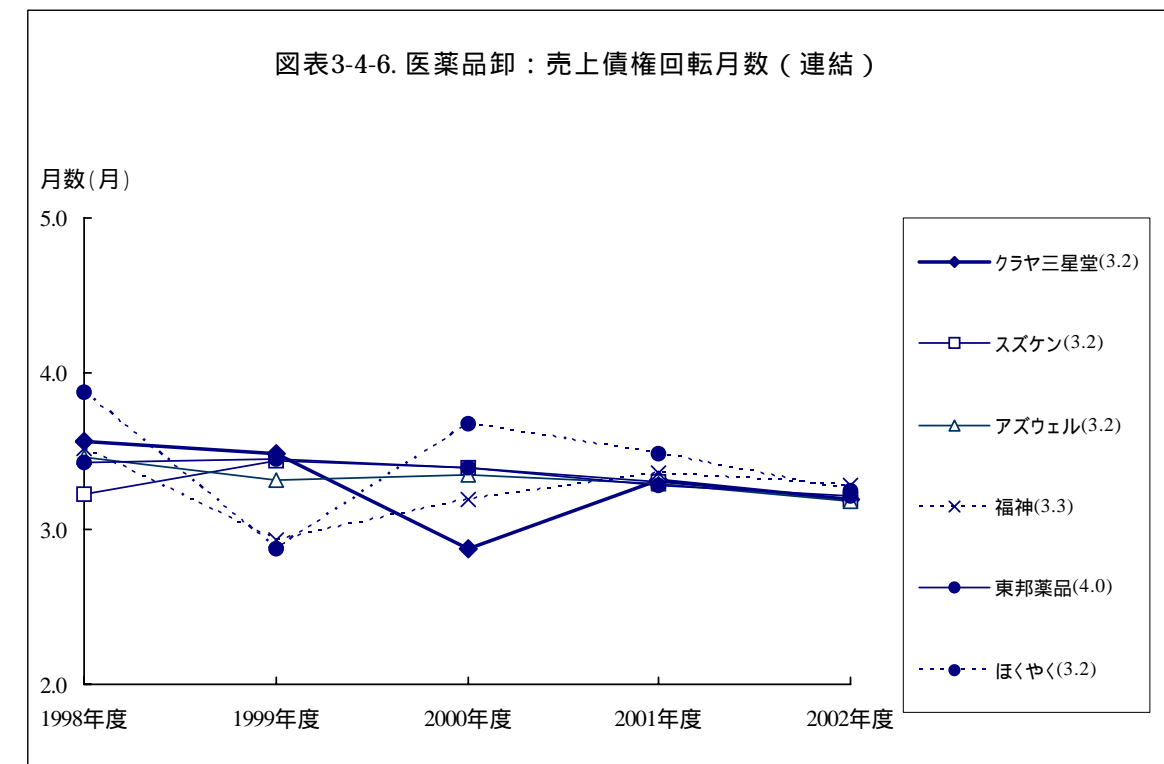
医薬品卸

医薬品卸大手6社の売上債権回転月数は、平均で3.2か月であり、かつますます短くなる傾向にある。医薬品卸は、医療機関からは3か月で代金を回収し、製薬メーカーにはその1、2か月後に支払をしている。

図表3-4-5. 医薬品卸：仕入債務回転月数(連結)



図表3-4-6. 医薬品卸：売上債権回転月数(連結)



参考資料

各社決算短信

「医薬品産業実態調査報告【医薬品製造業・卸業】(平成11年度、平成12年度、平成13年度)」  
厚生労働省医政局経済課

「薬事工業生産動態統計年報(平成12年、平成13年)」厚生労働省医政局編集、じほう

「薬事ハンドブック2003」じほう

「医薬品企業総覧2002」じほう

「BAST TKC経営指標2002」TKC全国会

「メディダス「医療・介護経営実態調査」報告 病院・診療所2002年版」  
日医総研ワーキングペーパー、No.83

## ( 付録 )

- ・ 製薬メーカー財務諸表
- 1 . 連結経営指標
- 2 . 連結損益計算書
- 3 . 連結貸借対照表
- 4 . 連結キャッシュフロー



2003（平成15）年3月期：製薬メーカー連結経営指標

大項目	中項目	単位	武田薬品	三共	山之内	塩野義	協和発酵	エーザイ	第一製薬	藤沢薬品	大正製薬	中外製薬	田辺製薬	三菱ケルファーマ	萬有製薬	大日本	小野薬品	15社平均
規模	売上高	億円	10,461	5,699	5,066	2,852	3,593	4,666	3,220	3,821	2,741	2,374	1,823	2,808	1,855	1,722	1,350	3,603
	経常利益	億円	4,052	802	1,038	181	117	761	537	615	609	310	317	274	267	129	522	702
	使用総資本	億円	20,594	9,158	8,982	3,717	3,688	5,917	5,124	5,115	5,777	4,253	2,377	3,408	3,026	1,874	3,627	86,636
	自己資本	億円	15,677	6,587	6,788	2,748	2,190	3,882	4,015	3,353	4,857	2,773	1,787	1,890	2,583	1,160	3,141	63,432
収益性	売上高総利益率	%	71.3	59.9	65.4	46.2	35.2	78.0	66.8	64.1	73.2	66.6	62.5	57.0	65.3	37.2	84.8	62.2
	売上高経常利益率	%	38.7	14.1	20.5	6.3	3.2	16.3	16.7	16.1	22.2	13.0	17.4	9.8	14.4	7.5	38.6	17.0
	総資本事業利益率	%	15.9	9.0	12.1	4.8	4.2	13.5	10.5	13.0	10.1	8.0	13.1	8.6	12.3	7.3	14.5	10.5
	株主資本税引後利益率	%	18.2	5.2	8.9	2.1	3.9	10.9	3.4	8.8	7.3	-8.4	5.0	4.3	5.5	5.5	8.3	5.9
安全性	流動比率	%	447.4	352.3	378.7	442.6	206.1	239.0	383.7	254.3	534.2	302.0	312.2	177.0	355.3	189.0	623.7	346.5
	株主資本比率	%	76.1	71.9	75.6	73.9	59.4	65.6	78.4	65.6	84.1	65.2	75.2	55.5	85.4	61.9	86.6	72.0
	借入金依存度	%	0.2	2.3	1.0	7.5	14.1	0.0	0.0	4.5	0.1	2.8	0.8	15.9	0.0	5.9	0.0	3.7
効率性	総資本回転率	回	0.5	0.6	0.6	0.7	0.9	0.8	0.6	0.8	0.5	0.6	0.7	0.8	0.6	0.9	0.4	0.7
	棚卸資産回転月数	月	1.1	1.9	1.3	2.1	1.9	0.9	1.7	1.6	0.8	1.7	1.6	2.7	1.5	1.6	0.8	1.5
	売上債権回転月数	月	2.5	3.9	2.8	4.3	4.0	3.6	3.2	2.8	3.1	4.1	3.9	3.8	4.0	4.6	3.6	3.6
	仕入債務回転月数	月	3.3	3.2	3.3	3.7	2.6	1.9	1.9	1.6	2.4	2.1	2.8	2.1	1.3	3.5	2.8	2.6
その他	売上高販売費及び一般管費比率	%	41.6	45.9	44.5	39.5	30.7	61.8	50.5	47.8	53.4	53.8	44.5	46.5	48.9	29.8	47.3	45.8
	売上高研究開発費比率	%	11.9	15.2	13.2	11.0	8.8	12.8	16.6	16.3	10.8	20.4	12.9	17.2	13.5	8.8	22.5	14.1
	海外売上高比率	%	39.2	27.8	38.5	-	17.3	50.0	21.8	46.7	-	6.5	10.0	17.8	-	-	1.5	25.2

\* 平均は単純平均

2003 (平成15)年3月期：製薬メーカー連結損益計算書 金額単位：億円

	武田薬品	三共	山之内	塩野義	協和発酵	エーザイ	第一製薬	藤沢薬品	大正製薬	中外製薬	田辺製薬	三菱ケル ファーマ	萬有製薬	大日本	小野薬品	15社計
売上高	10,461	5,699	5,066	2,852	3,593	4,666	3,220	3,821	2,741	2,374	1,823	2,808	1,855	1,722	1,350	54,050
うち医薬品売上高	9,283	4,435	4,113	2,684	1,383	4,417	3,033	3,534	2,469	2,374	1,603	2,529	1,855	1,220	1,349	46,280
売上原価	3,003	2,289	1,752	1,534	2,330	1,025	1,069	1,374	735	790	683	1,207	643	1,081	206	19,721
売上総利益	7,457	3,412	3,314	1,318	1,263	3,640	2,151	2,449	2,007	1,580	1,140	1,600	1,211	641	1,144	34,328
一般管理費	4,351	2,613	2,257	1,126	1,102	2,881	1,625	1,827	1,463	1,277	811	1,306	907	512	638	24,697
研究開発費	1,242	867	669	313	314	597	534	624	295	485	234	483	251	152	304	7,364
営業利益	3,107	798	1,057	193	161	759	526	621	544	303	328	294	304	129	506	9,632
うち医薬品営業利益	3,065	779	957	163	110	777	602	625	40	303	320	269	304	133	506	8,956
営業外収益	1,105	58	63	35	31	28	21	61	70	29	18	14	25	19	22	1,597
営業外費用	160	54	82	46	75	25	10	67	5	23	29	34	62	19	7	698
経常利益	4,052	802	1,038	181	117	761	537	615	609	310	317	274	267	129	522	10,530
特別利益	353	13	12	5	114	7	10	47	17	30	3	43	0	19	91	764
特別損失	85	92	118	95	61	70	185	215	23	271	143	259	28	23	123	1,791
税引き前当期利益	4,319	724	932	91	170	698	363	447	603	69	177	58	239	136	490	9,515
法人税等	1,600	385	334	32	85	288	227	161	249	-270	89	-25	149	64	232	3,599
税引後利益	2,718	338	599	59	85	410	136	286	354	-201	88	83	140	64	257	5,414
海外売上高	4,098	1,584	1,948	-	623	2,335	701	1,784	-	154	182	499	-	-	21	13,929
海外売上高 / 売上高計	39.2%	27.8%	38.5%	0.0%	17.3%	50.0%	21.8%	46.7%	0.0%	6.5%	10.0%	17.8%	0.0%	-	1.5%	25.8%

2002（平成14）年3月期：製薬メーカー連結貸借対照表 金額単位：億円

	武田薬品	三共	山之内	塩野義	協和発酵	エーザイ	第一製薬	藤沢薬品	大正製薬	中外製薬	田辺製薬	三菱ケル ファーマ	萬有製薬	大日本	小野薬品	15社計
現預金	8,277	1,455	2,304	776	252	1,013	276	291	1,163	706	356	278	206	139	164	17,656
受取手形及び売掛金	2,026	1,772	1,224	764	1,082	1,490	879	935	670	977	566	867	630	670	393	14,947
有価証券	3,387	1,123	1,032	23	-	353	796	718	340	473	-	3	-	51	1,095	9,394
当座資産	13,690	4,351	4,560	1,563	1,334	2,856	1,951	1,944	2,173	2,156	923	1,148	836	860	1,652	41,996
棚卸資産	895	865	566	413	516	351	461	503	186	408	258	646	151	241	92	6,550
その他流動資産	837	245	463	130	109	283	480	352	117	201	47	283	380	61	75	4,062
流動資産計	15,422	5,460	5,589	2,105	1,959	3,490	2,892	2,798	2,476	2,765	1,228	2,076	1,367	1,162	1,819	52,608
建物・機械等	1,892	1,547	1,404	564	818	881	936	838	792	725	385	781	501	254	308	12,627
土地	72	293	332	172	217	191	178	148	235	126	183	215	-	52	227	2,640
建設仮勘定	69	103	170	20	15	45	10	41	1	88	20	58	-	48	63	751
有形固定資産	2,033	1,943	1,906	756	1,021	1,117	1,124	1,028	1,027	940	589	1,054	501	354	598	15,989
無形固定資産	110	298	315	53	5	160	94	238	178	32	63	43	41	17	16	1,665
投資等	3,029	1,456	1,172	803	703	1,150	1,014	1,051	2,096	516	498	235	1,116	341	1,193	16,373
固定資産計	5,172	3,698	3,393	1,612	1,729	2,427	2,232	2,317	3,301	1,488	1,149	1,331	1,659	712	1,807	34,027
資産合計	20,594	9,158	8,982	3,717	3,688	5,917	5,124	5,115	5,777	4,253	2,377	3,408	3,026	1,874	3,627	86,636
支払手形及び買掛金	776	578	412	121	459	161	149	192	136	170	159	204	50	319	68	3,953
短期借入金	47	143	19	77	179	1	-	65	3	1	17	434	-	111	-	1,097
未払金・未払費用	704	-	496	-	204	637	430	407	205	286	131	166	197	-	-	3,863
未払法人税等	843	202	384	39	21	230	115	94	65	317	10	21	37	40	89	2,509
その他流動負債	1,077	628	165	238	87	430	59	342	55	142	77	349	100	145	134	4,027
流動負債	3,447	1,550	1,476	476	950	1,460	754	1,100	463	916	393	1,173	384	615	292	15,449
社債・転換社債	-	-	65	200	330	-	-	115	-	98	1	-	-	-	-	808
長期借入金	-	64	9	-	11	-	1	53	-	22	-	107	-	-	1	267
その他固定負債	1,063	873	621	291	191	481	290	479	448	428	175	113	58	92	175	5,781
固定負債	1,063	937	694	491	532	481	291	646	448	548	176	220	58	92	176	6,856
負債計	4,510	2,487	2,170	967	1,483	1,941	1,045	1,746	911	1,464	570	1,393	443	708	468	22,305
少数株主持分	406	84	24	2	15	93	64	15	9	17	21	125	-	6	18	899
資本金	635	688	998	213	267	450	452	386	298	682	443	306	443	134	174	6,569
資本剰余金	496	669	1,137	202	432	552	490	572	149	881	481	710	452	159	170	7,551
利益剰余金	8,968	5,324	5,661	2,309	1,382	3,027	3,297	2,424	4,672	1,201	916	932	1,814	893	3,044	45,864
その他	619	-94	-1,008	24	94	-146	-225	-28	-263	8	-53	-58	-126	-26	-246	-1,525
資本	15,677	6,587	6,788	2,748	2,190	3,882	4,015	3,353	4,857	2,773	1,787	1,890	2,583	1,160	3,141	63,432
資本・負債合計	20,594	9,158	8,982	3,717	3,688	5,917	5,124	5,115	5,777	4,253	2,377	3,408	3,026	1,874	3,627	86,636

## 2002(平成14)年3月期：製薬メーカー連結キャッシュフロー計算書

金額単位：億円

	武田薬品	三共	山之内	塩野義	協和発酵	エーザイ	第一製薬	藤沢薬品	大正製薬	中外製薬	田辺製薬	三菱ウエル ファーマ	萬有製薬	大日本	小野薬品
現金及び現金同等物期首残高	6,983	1,574	3,086	797	419	1,218	975	513	261	534	621	435	195	239	544
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,634	692	858	78	182	576	555	569	534	226	44	201	266	61	321
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,401	10	-40	60	26	-277	-232	-286	104	-160	-76	-61	77	-77	-118
財務活動によるキャッシュ・フロー	-590	-228	-576	-149	-387	-198	-143	-89	-276	65	-237	-303	-42	-54	-144
現金及び現金同等物に係る換算差額	-200	-	-16	-	7	-45	-5	-16	-2	-3	-0	-4	-	-	-0
その他	-	-	-	-69	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
現金及び現金同等物の増減額	3,246	477	226	-82	-172	55	-85	178	361	128	-269	-166	331	-70	58
現金及び現金同等物期末残高	10,230	2,051	3,312	715	246	1,273	889	691	621	706	351	230	526	169	602

## ( 付録 )

- . 医薬品卸財務諸表
- 1 . 連結経営指標
- 2 . 連結損益計算書
- 3 . 連結貸借対照表
- 4 . 連結キャッシュフロー

2003（平成15）年3月期：医薬品卸連結経営指標

大項目	中項目	単位	クラヤ 三星堂	スズケン	アズウェル	福神	東邦薬品	ほくやく	8社平均
規模	売上高	億円	12,745	10,602	4,885	5,215	4,763	1,421	6,605
	経常利益	億円	136	273	55	78	66	24	106
	使用総資本	億円	6,386	6,236	2,566	2,452	2,434	786	3,476
	株主資本	億円	1,123	1,869	658	325	391	290	776
収益性	売上高総利益率	%	9.0	10.9	10.2	8.0	7.8	8.0	9.0
	売上高経常利益率	%	1.1	2.6	1.1	1.5	1.4	1.7	1.6
	総資本事業利益率	%	1.6	3.3	1.7	3.0	2.1	2.7	2.4
	株主資本税引後利益率	%	4.5	9.1	4.0	12.8	8.4	3.5	7.1
安全性	流動比率	%	103.5	119.5	114.3	104.9	106.7	125.6	112.4
	株主資本比率	%	17.6	30.0	25.7	13.3	16.1	36.9	23.2
	借入金依存度	%	5.3	1.0	0.0	1.4	3.9	0.1	1.9
効率性	総資本回転率	回	2.0	1.8	1.9	2.3	2.0	1.8	2.0
	棚卸資産回転月数	月	0.5	0.9	0.6	0.5	0.7	0.6	0.6
	売上債権月数	月	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2
	仕入債務回転月数	月	4.6	4.9	4.5	4.4	4.6	4.3	4.6
その他	売上高販管費及び一般管理費率	%	8.2	9.1	9.4	6.5	7.0	7.3	7.9

	クラヤ 三星堂	スズケン	アズウェル	福神	東邦薬品	ほくやく	6社計
売上高	12,745	10,602	4,885	5,215	4,763	1,421	39,631
うち医薬品卸事業売上高	12,745	10,359	4,730	4,931	4,756	1,343	38,864
売上原価	11,596	9,447	4,384	4,807	4,382	1,298	35,914
うち当期商品仕入高	10,674	9,590	4,334	4,825	4,364	-	33,787
売上総利益	1,149	1,155	501	408	380	123	3,715
販売費及び一般管理費	1,048	965	460	340	332	103	3,248
営業利益	102	189	40	68	48	19	467
うち医薬品卸事業営業利益	102	161	32	-	52	17	364
営業外収益	48	90	15	19	22	6	200
受取利息・配当金	3	5	2	1	1	1	14
営業外費用	13	6	1	8	3	2	33
支払利息・割引料	4	0	0	1	1	0	7
経常利益	136	273	55	78	66	24	633
特別利益	1	130	24	-	2	1	158
特別損失	25	110	27	-	9	6	178
税引き前当期利益	112	293	53	78	59	19	614
法人税等	62	133	26	39	27	9	296
税引後利益(当期純利益)	50	160	27	40	32	10	318



	クラヤ 三星堂	スズケン	アールエル	福神	東邦薬品	ほくやく	6社計
現預金	702	831	162	196	220	116	2,226
受取手形及び売掛金	3,402	3,000	1,309	1,512	1,340	373	10,936
有価証券	-	5	196	-	5	-	206
当座資産	4,104	3,836	1,667	1,708	1,565	489	13,369
棚卸資産	559	842	268	243	291	75	2,278
その他流動資産	323	360	116	161	148	47	1,155
流動資産計	4,986	5,038	2,051	2,111	2,005	611	16,801
建物・機械等	470	323	127	88	108	49	1,164
土地	484	364	208	100	188	40	1,384
有形固定資産	955	688	336	188	300	89	2,556
無形固定資産	76	71	10	9	9	3	179
投資等	369	438	169	144	119	83	1,322
固定資産計	1,400	1,198	515	341	429	174	4,057
資産合計	6,386	6,236	2,566	2,452	2,434	786	20,858
支払手形及び買掛金	4,457	4,025	1,676	1,914	1,763	465	14,300
短期借入金	133	8	0	31	34	0	205
未払金・未払費用	-	-	50	-	9	-	59
未払法人税等	54	25	35	33	22	9	178
その他流動負債	174	158	32	34	51	12	460
流動負債	4,817	4,216	1,794	2,012	1,879	486	15,204
社債・転換社債	193	43	-	-	-	-	236
長期借入金	11	9	-	2	61	1	84
その他固定負債	198	78	113	82	100	8	578
固定負債	402	130	113	84	161	9	898
負債計	5,219	4,345	1,907	2,096	1,852	495	15,915
小数株主持分	44	21	-	31	3	-	99
資本金	128	131	85	23	70	50	487
資本準備金	259	262	87	25	90	49	772
利益準備金等	879	1,627	484	300	252	201	3,742
その他	-143	-151	3	-23	-20	-9	-344
資本	1,123	1,869	658	325	391	290	4,656
資本・負債合計	6,386	6,236	2,566	2,452	2,434	786	20,858

2003（平成15）年3月期：医薬品卸連結キャッシュフロー計算書

金額単位：億円

	クラヤ 三星堂	スズケン	アズウェル	福神	東邦薬品	ほくやく
現金及び現金同等物期首残高	739	923	274	126	145	71
営業活動によるキャッシュ・フロー	115	-36	95	115	53	54
投資活動によるキャッシュ・フロー	-65	56	23	-8	-4	-4
財務活動によるキャッシュ・フロー	-101	-149	-35	-40	-2	-5
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	-0	-0	0	0	0
新規連結に伴う現金及び現金同等物の換算差額等	0	0	0	0	0	0
現金及び現金同等物の増減額	-56	-87	83	66	55	45
現金及び現金同等物期末残高	684	836	358	192	201	116